

HDTV 動画・静止画ファイル装置
MF-9941HD-D
HDTV MULTI FILE
取扱説明書

必ずお読みください！

ビデオトロン株式会社

この製品を安全にご使用いただくために



警告

誤った取扱いをすると死亡または重傷、火災など重大な結果を招く恐れがあります。

1、電源プラグ、コードは

- ・指定された電源電圧(AC100V 50/60Hz)以外では使用しないでください。
- ・AC 電源(室内電源)の容量を超えて機械を接続し長時間使用すると火災の原因になります。
- ・差込みは確実に。ほこりの付着やゆるみは危険です。
- ・濡れた手でプラグの抜き差しを行わないでください。
- ・抜き差しは必ずプラグを持って行ってください。コードを持って引っ張らないでください。
- ・コードは他の機器の電源ケーブルや他のケーブル等からませないでください。
- ・コードの上に重い物を載せないでください。電源がショートし火災の原因になります。
- ・機械の取り外しや清掃時等は必ず機械の電源スイッチを OFF にしてからプラグを抜いてください。

2、本体が熱くなったら、焦げ臭いにおいがしたら

- ・すぐに電源スイッチを切ってください。ただし、電源回路上、切れない場合があります。その時は電源プラグを正しく抜いてください。機械の保護回路により電源が切れた場合、あるいはブザーによる警報音が出た場合にはすぐに電源スイッチを切るか、電源プラグを抜いてください。
- ・上下に設置されている機械の電源スイッチまたはメインのブレーカーを切ってください。
- ・空調設備を確認してください。
- ・しばらく、手や体を触れないでください。ファンの停止が考えられます。設置前にファンの取り付け場所を確認しておきファンが停止していないか確認をしてください。5年に一度はファンの交換をおすすめします。
- ・機械の通風孔をふさぐような設置をしないでください。熱がこもり火災の原因になります。
- ・消火器は必ず1本マシンルームに設置し緊急の場合に取り扱えるようにしてください。
- ・弊社にすぐ連絡ください。

3、機械の近くでは飲食やタバコ、火気を取り扱うことは絶対に行わないでください。

- ・特にタバコ、火気を取り扱うと電気部品に引火し火災の原因になります。
- ・機械の近く、またはマシンルーム等の密閉された室内で可燃性ガスを使用すると引火し火災の原因になります。
- ・コーヒーやアルコール類が電気部品にかかりますと危険です。

4、修理等は、ご自分で勝手に行わないでください。

下記のあやまちにより部品が発火し火災の原因になります。

- ・部品の取り付け方法(極性の逆等)を誤ると危険です。
- ・電源が入っている時に行くと危険です。
- ・規格の異なる部品の交換は危険です。

5、その他

- ・長期に渡ってご使用にならない時は電源スイッチを切り、安全のため電源プラグを抜いてください。
 - ・重量のある機械は1人で持たないでください。最低2人でかかえてください。腰を痛めるなど、けがのもとになります。
 - ・ファンが回っている時は手でさわらないでください。必ず停止していることを確かめてから行ってください。
 - ・車載して使用する時は確実に固定してください。転倒し、けがの原因になります。
 - ・本体のラックマウントおよびラックの固定はしっかり建物に固定してください。地震などによる災害時危険です。
- また、地震の時は避難の状況によりブレーカーを切るか、火災に結び付かない適切な処置および行動を取ってください。そのためには日頃、防災対策の訓練を行っておいてください。
- ・機械内部に金属や導電性の異物を入れないでください。回路が短絡して火災の原因になります。
 - ・周辺の機材に異常が発生した場合にも本機の電源スイッチを切るか電源プラグを抜いてください。



注意

誤った取扱いをすると機械や財産の損害など重大な結果を招く恐れがあります。

1、操作卓の上では飲食やタバコは御遠慮ください。

コーヒーなどを操作器内にこぼしスイッチャー部品の接触不良になります。

2、機械の持ち運びに注意してください。

落下等による衝撃は機械の故障の原因になります。

また、足元に落としたりしますと骨折等けがの原因になります。

3、フロッピーディスクやMOディスクを取り扱う製品については

・規格に合わないディスクの使用はドライブの故障の原因になります。

マニュアルに記載されている規格の製品をご使用ください。

・長期に渡り性能を維持するために月に一回程度クリーニングキットでドライブおよびMOディスクをクリーニングしてください。

・フィルターの付いている製品はフィルターの清掃を行ってください。

通風孔がふさがり機械の誤動作および温度上昇による火災の原因になります。

・強い磁場にかかる場所に置いたり近づけたりしないでください。内部データに影響を及ぼす場合があります。

・湿気やほこりの多い場所での使用は避けてください。故障の原因になります。

・大切なデータはバックアップを取ることをおすすめします。

●定期的なお手入れをおすすめします。

- ・ほこりや異物等の混入により接触不良や部品の故障が発生します。
- ・お手入れの際は必ず電源を切ってプラグを抜いてから行ってください。
- ・正面パネルから、または通風孔からのほこり、本体、操作器内部の異物等の清掃。
- ・ファンのほこりの清掃
- ・カードエッジコネクタタイプの基板はコネクタの清掃を一月に一度は行ってください。

また、電解コンデンサー、バッテリー他、長期使用劣化部品等は事故の原因につながります。

安心してご使用していただくために定期的な(5年に一度)オーバーホール点検をおすすめします。

期間、費用等につきましては弊社までお問い合わせください。

**上記現象以外でも故障かなと思われた場合は弊社にご連絡ください。

☆連絡先………ビデオトロン株式会社

〒193-0835 東京都八王子市千人町2-17-16

TEL 042-666-6329

FAX 042-666-6330

受付時間 8:30~17:00

E-Mail cs@videotron.co.jp

◎土曜・日曜・祝祭日の連絡先

留守番電話 042-666-6311

緊急時 ** 090-3230-3507

受付時間 9:00~17:00

**携帯電話の為、通話に障害を起こす場合がありますので、あらかじめご了承ください。

..... 目次

この製品を安全にご使用いただくために.....	1
1. 概説.....	1
《特長》.....	1
2. 機能チェック.....	2
1. 構成.....	2
(1)本体.....	2
(2)ダイレクトパネル.....	2
2 機能チェック接続図.....	2
3. POWER ON までの手順.....	3
4. 基本動作チェック.....	3
3. 各部の名称と働き.....	5
1. 本体正面.....	5
2. 本体背面.....	7
3. 操作パネル正面.....	8
4. 操作パネル背面.....	11
4. 操作方法.....	12
1. 起動画面.....	12
2. 操作概要.....	12
3. 全モード共通の操作.....	12
4. ファイル構造について.....	13
5. トランジションについて.....	13
6. 送出ポジションについて.....	14
7. ループについて.....	14
8. システムモード.....	14
(1)GENLOCK.....	15
(2)READ SEND.....	15
(3)BACK UP.....	16
(4)NETWORK.....	16
(5)REMOTE.....	16
(6)PATTERN.....	17
(7)FORMAT.....	17
(8)TALLY DELAY.....	18
(9)PARTITION.....	18
9. 編集モード.....	19
(1)STILL WRITE.....	19
(2)MOVIE WRITE.....	20
(3)IN/OUT ADJUST.....	21

(4) COPY	22
(5) DELETE	24
(6) DELETE INHIBIT	26
(7) FILE PROPERTY	28
10. 送出モード	30
(1) DIRECT 送出	31
(2) PRESET 送出	31
(3) 黒み挿入PRESET 送出	32
5. FTP 転送	34
1. 概 要	34
2. 接 続	34
3. ネットワーク設定	34
4. ネットワーク接続の確認	34
5. 転送ファイル仕様	35
6. FTP 転送操作手順(例)	36
6. 外部インターフェース	38
1. GPI コネクター	38
2. RS-422 コネクター	40
3. 10/100BASE コネクター	40
7. トラブルシューティング	41
8. 保守・点検	42
1. 電源ヒューズの交換方法	42
9. 仕 様	43
1. 定 格	43
2. 性 能	44
10. 外形寸法図	45
1. 本体	45
2. ダイレクトパネル	46

1. 概 説

ハイビジョンファイル装置MF-9941HD-DIはステーションマークやロゴマークに音声つき動画や静止画を記録、再生できる小型軽量のファイル装置です。

ファイルの送出手は半導体メモリから行われますので、長時間の連続運転にも安心してご利用いただけます。半導体メモリ上のデータは内蔵のHDDへバックアップできますので、電源を遮断してもファイルをリストアできます。

専用のダイレクトパネルを使用して任意のファイルを瞬時に読み出すことができ、プレビュー画面で確認することもできます。

《特 長》

- 半導体メモリとHDDの組み合わせで安定した長時間連続運転ができます。
- フィル+キー+オーディオ信号の動画を最大1分記録できます。
- 動画、静止画の記録時間は合計1920フレーム、音声の記録時間は合計約10分です。**1
- フィル信号、キー信号ともに8bit非圧縮処理です。
- 動画のリピート再生ができます。
- 表示位置調整ができます。(全領域移動可)
- プレビュー画面で送出手ファイルを予め確認できます。**2
- カット/フェード/ディゾルブ/ワイプ/スライド/スクロールの送出手効果ができます。
- ダイレクトパネルで送出手/編集の操作が簡単にできます。
- イーサネットで静止画素材の取り込みができます。**3
- SMPTE292M 1080i/59.94に対応しています。
- AES/EBU音声信号は48kHz/24bit×8ch(4ペア)
- 電源は二重化されており、電源ユニットのホットスワップができます。

**1 動画と静止画の記録領域を共用しているため動画を30秒記録した場合、静止画の最大記録枚数は1020枚になります。

**2 動画の送出手時はPREVIEW OUTの表示がPROGRAM OUTと同じになります。

**3 動画素材の転送も可能ですが、1フレームの転送に10秒程度の時間を要します。

2. 機能チェック

1. 構成

(1) 本体

番号	品名	形名・規格	数量	記事
1	マルチファイル本体	MF-9941HD-D	1 台	
2	電源ケーブル		2 本	
3	ヒューズ	4 A	6 本	
4	マウントビス	5mm	4 本	
5	GPI コネクタ	HDCB-37P(ヒロセ)	1 個	37ピン
6	GPI コネクタカバー	17JE-37H-1C(DDK)	1 個	
7	取扱説明書		1 部	本書

(2) ダイレクトパネル

番号	品名	形名・規格	数量	記事
1	ダイレクトパネル	MF-9941HD-D	1 台	
2	電源ケーブル		1 本	
3	通信用同軸ケーブル	10 m	1 本	本体通信用
4	ヒューズ	2 A	3 本	

2 機能チェック接続図

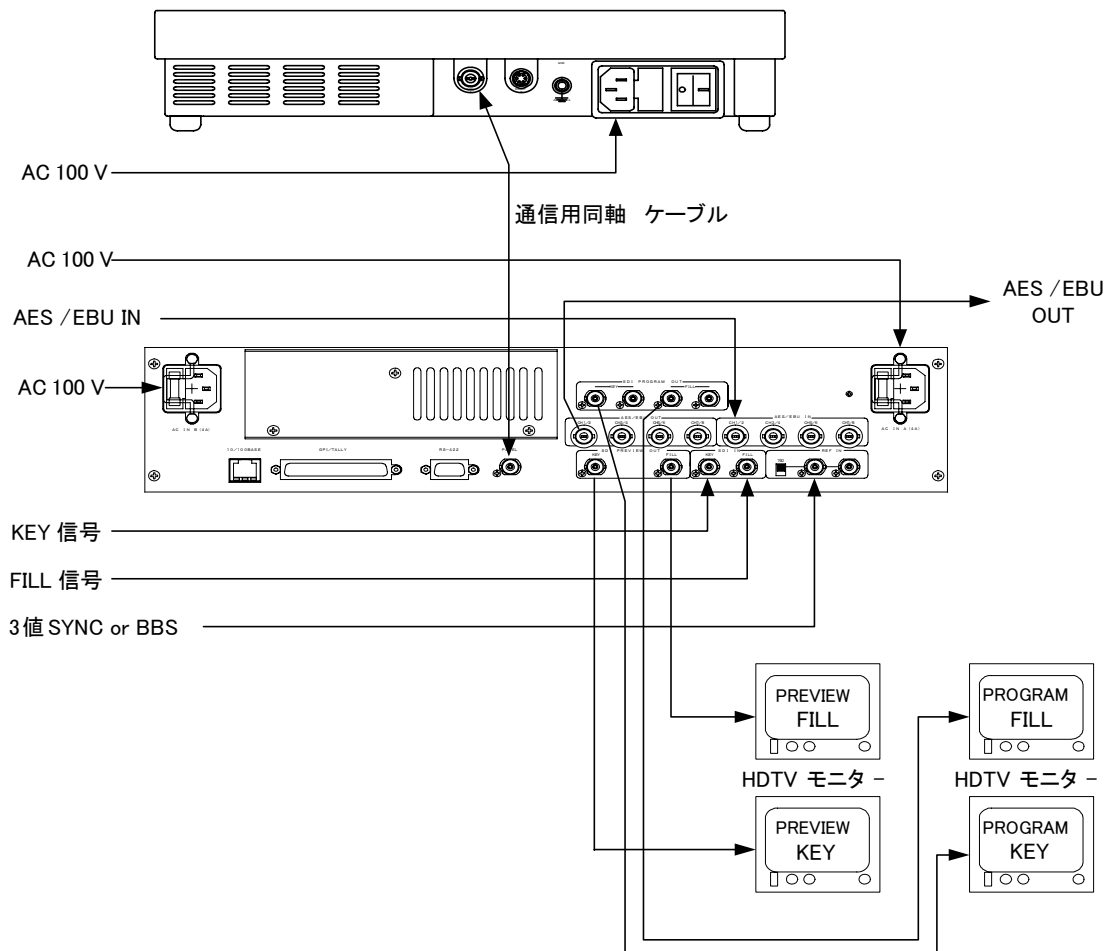


図2-1 接続例

3. POWER ON までの手順

- (1)本体、ダイレクトパネルの電源プラグをAC100Vのコンセントに挿入します。
- (2)本体、ダイレクトパネル間を通信用同軸ケーブルで接続します。
- (3)REF INに3値SYNCまたはBBS信号を入力します。75Ω 終端スイッチはON(75Ω 側)にします。
- (4)REF INの信号に同期したFILL信号、KEY信号を各々FILL IN、KEY INに入力します。
- (5)REF INの信号に同期したAES/EBU信号をAES/EBU IN CH1/2に入力します。
- (6)PROGRAM FILL OUT、PROGRAM KEY OUT、PREVIEW FILL OUT、PREVIEW KEY OUTをHDTVモニター等に接続します。
- (7)AES/EBU OUT CH1/2をAES/EBU AUDIOモニター等に接続します。
- (8)本体、ダイレクトパネルの電源スイッチをONします。本体のPOWERランプが点灯し、PREVIEW FILL OUT、PREVIEW KEY OUTに「LOADING」のメッセージと「カウントダウンの数値」が表示されます。
本体が立ち上がると前回終了時またはリードモードの設定でファイルが読み出され、ボタンが点灯します。

4. 基本動作チェック

下記の操作で本体が正常に動作していることをチェックします。

正常に動作しない場合は「トラブルシューティング」(P.41)を参照してください。

●ファイル番号 00 にFILLとKEYの動画と音声を記録し、再生します。

- (1)パネル上のCOMエラーの点滅が消えている事を確認します。

・動画と音声の記録

- (2)**EDIT**、**MOVIE WRITE**を押して編集・書き込みモードに入ります。
この時PREVIEW OUTに入力の映像がスルーで出力されています。
- (3)記録先のファイル番号を指定します。
FILE の **00/50**を押します。
- (4)現在スルーで出力されている映像の確認を行います。
CONFIRMを押します。
キャンセルする場合は**MOVIE WRITE**、または**EDIT**を押します。
- (5)スルーで出力されている映像をファイルへ書き込みます。**CHG/EXEC**を押します。
- (6)もう一度**CHG/EXEC**を押すと書き込みを終了します。

・動画と音声の再生

- (7)**EDIT**を押して編集・書き込みモードを抜け、送出モードにします。
- (8)**DIRECT**を押してダイレクト送出モード**にします。
**動画の送出はダイレクトのみです。
- (9)登録済みのスイッチ**00/50**が赤色に点灯しています。
ここで**00/50**を押すと橙色の点灯に変わり、PROGRAM OUT、PREVIEW OUT共に、**00/50**に書き込まれた映像と音声が出しされます。
- (10)**START**を押すと再生します。再生中**START**は点灯します。

・HDDへバックアップ

(11) **SYS**を押してシステムモードに入ります。

PREVIEW OUTにシステムメニューが表示されます。

(12) **↑ CLOSE**、**↓ CLOSE**で「BACK UP」を選択し**CHG/EXEC**を押してバックアップモードに入ります。

(13)「SURE?」が表示され、**↑ CLOSE**、**↓ CLOSE**で「YES」を選択し、**CHG/EXEC**を押すとバックアップを開始します。

バックアップ中は「SAVING」のメッセージが表示されます。

(14)バックアップが終了すると「SAVE END」のメッセージが表示されます。どれかスイッチを押すと「SAVE END」のメッセージは消え、システムメニューが表示されます。

・本体電源の再起動

(15)本体電源スイッチをOFFします。

(16)本体電源スイッチをONします。本体POWERランプが点灯し、PREVIEW OUTに「LOADING」のメッセージと「カウントダウンの数値」が表示されます。

本体が立ち上がると前回終了時またはリードモード**の設定でファイルが読み出され、ボタンが点灯します。

**リードモードの詳細は「システムモード」(P.14)、「READ SEND」(P.15)を参照してください。

・再度動画と音声の再生

(17)本体が立ち上がったら**00/50**を押します。PROGRAM OUT、PREVIEW OUT共に記録された動画と音声が出しされます。

(18)**START**を押すと再生されます。**START**は再生中点灯します。

*文中の **□** で囲まれている単語は操作パネル上のスイッチを意味します。

3. 各部の名称と働き

1. 本体正面

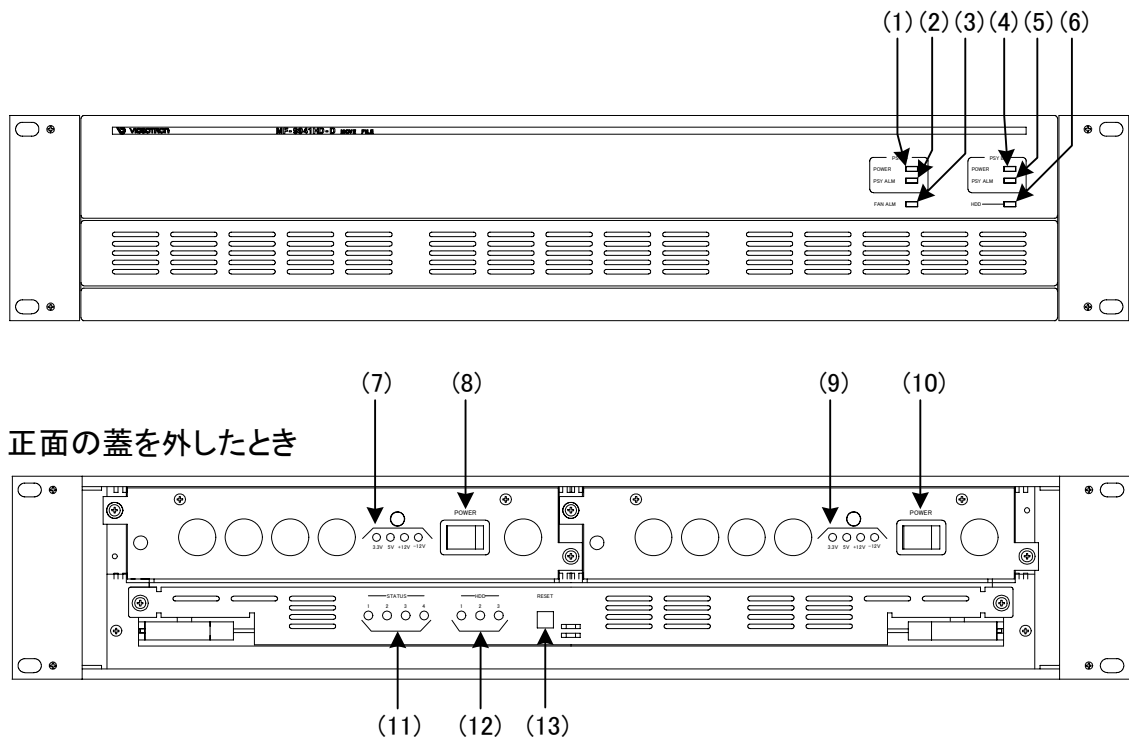


図3-1 本体正面

(1) POWERランプ(電源ユニットA)

電源ユニットA側のスイッチをONすると点灯します。

A側のスイッチをONしても消灯している場合は電源ユニットの異常です。

(2) PSY ALMランプ(電源ユニットA)

電源ユニットA側のアラームランプです。A側の電源スイッチがOFFまたは電源に異常が生じると点滅します。

PSY ALARMランプの点滅については、「トラブルシューティング」(P.41)を参照してください。

(3) FAN ALMランプ

ファンに異常が生じると点滅します。

FAN ALMランプの点滅については、「トラブルシューティング」(P.41)を参照してください。

(4) POWERランプ(電源ユニットB)

電源ユニットB側のスイッチをONすると点灯します。

B側のスイッチをONしても消灯している場合は電源ユニットの異常です。

(5) PSY ALMランプ(電源ユニットB)

電源ユニットB側のアラームランプです。B側の電源スイッチがOFFまたは電源に異常が生じると点滅します。

PSY ALARMランプの点滅については、「トラブルシューティング」(P.41)を参照してください。

(6) HDDランプ

内蔵のHDDがアクセス中に点灯します。

(7)POWERランプ(電源ユニットA)

電源ユニットA側のスイッチをONすると、4つ(+5V,+3.3V,+12V,-12V)点灯します。

A側のスイッチをONして、1つでも消灯している場合は電源ユニットの異常です。

(8)POWERスイッチ(電源ユニットA)

電源ユニットA側のON/OFFスイッチです。

(9)POWERランプ(電源ユニットB)

電源ユニットB側のスイッチをONすると、4つ(+5V,+3.3V,+12V,-12V)点灯します。

A側のスイッチをONして、1つでも消灯している場合は電源ユニットの異常です。

(10)POWERスイッチ(電源ユニットB)

電源ユニットB側のON/OFFスイッチです。

(11)STATUS LED

メンテナンス用です。

(12)HDD LED

内蔵のHDDがアクセス中に点灯します。

1.LUMI 2.CHROMA 3.KEY,AUDIOに対応しています。

(13)RESETスイッチ

CPUのリセットスイッチです。押すことにより本体プログラムを再起動します

2. 本体背面

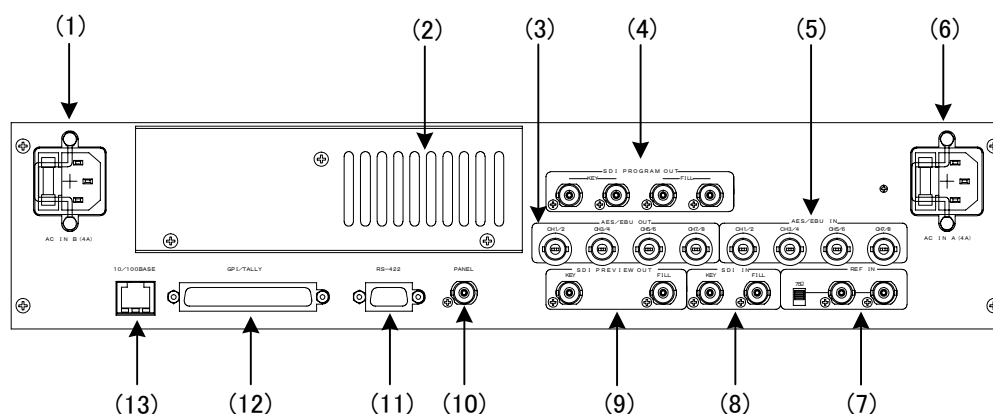


図3-2 本体背面

(1) AC IN(電源ユニットB)

電源ユニットB側の3端子のAC電源コネクタです。AC100Vのコンセントに付属の電源ケーブルを接続します。電源コネクタはヒューズホルダー付きです。出荷時は4Aのヒューズが実装されています。

(2) FAN吹き出し口

機内冷却用のファンの吹き出し口です。

(3) AES/EBU OUT

オーディオ CH1/2,CH3/4,CH5/6,CH7/8 の各出力端子です。

(4) SDI PROGRAM OUT

KEY信号、FILL信号のPROGRAM出力端子です。

(5) AES/EBU IN

オーディオ CH1/2,CH3/4,CH5/6,CH7/8 の各入力端子です。

(6) AC IN(電源ユニットA)

電源ユニットA側の3端子のAC電源コネクタです。AC100Vのコンセントに付属の電源ケーブルを接続します。電源コネクタはヒューズホルダー付きです。出荷時は4Aのヒューズが実装されています。

(7) REF IN

同期信号の入力端子です。システムの3値SYNCまたはBBS信号を入力します。

3値SYNCまたはBBS信号を内部で判別し自動的に切り替えます。

入力信号を他の機器へブリッジする場合は75Ω終端スイッチをOFF(下側)にします。ブリッジしない場合はON(上側)にします。

(8) SDI IN

KEY信号、FILL信号の各入力端子です。

(9) SDI PREVIEW OUT

KEY信号、FILL信号のPREVIEW出力端子です。

(10) PANEL

ダイレクトパネルと同軸ケーブルで接続します。

(11) RS-422

編集機等での外部からの制御に使用します。

(12) GPI

外部からの制御で、ファイルのチェンジ、再生、記録、停止等を行います。

動画、音声の再生中、記録中をタリー出力します。

本体の電源、またはファンに異常が生じるとタリー出力します。

詳細は、「GPIコネクタ」(P.38)を参照してください。

(13) 10/100BASE

ネットワークでのファイル転送に使用します。

3. 操作パネル正面

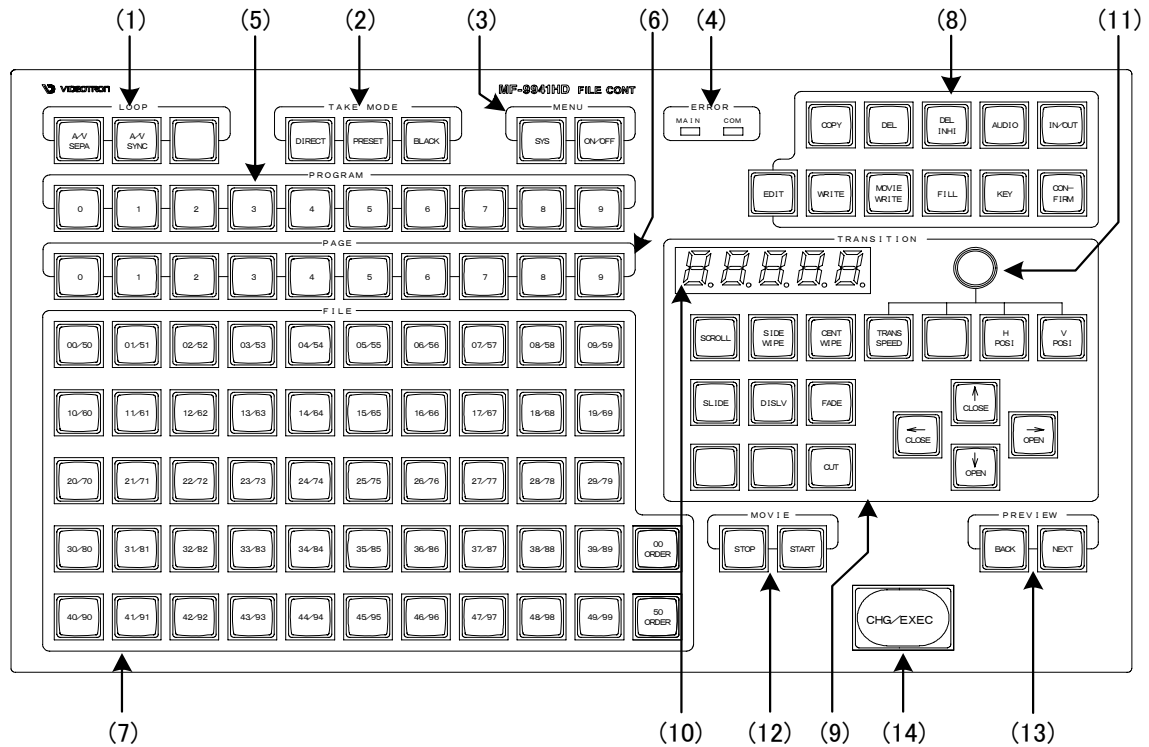


図3-3 操作パネル正面

(1) LOOP

LOOP再生の属性を設定します。

A/V SEPA : 動画と音声 that 各々の記録時間(またはIN点からOUT点までの時間)でループ再生します。

A/V SYNC : 動画または音声の記録時間の長い(またはOUT点が遅い)ファイルに同期してループ再生します。

(2) TAKE MODE

ファイルの送出形式を選択します。

DIRECT : 選択したファイルを直接PROGRAM OUTへ送出します。

PRESET : PREVIEW OUTで選択、確認したファイルを**CHG/EXEC**でPROGRAM OUTに送出します。

PREVIEW OUTは自動的に後続のファイルを出力します。別のファイルを選択することもできます。

BLACK : PRESETモードで使用し、送出するファイル間に常に黒画面を挿入します。

(3) MENU

メニュー表示の設定を行います。

SYS : システムモードに入ります。

ON/OFF : PREVIEW OUTのメニュー表示をON/OFFします。

(4) ERROR

MAIN : MF-9941HD-D本体に障害が起きた場合に赤色の点灯で警告します。

COM : パネル～本体間で通信エラーが発生した場合に赤色の点滅で警告します。また、本体の起動中も赤色に点滅します。

(5) PROGRAM

0～**9** : プログラム毎のファイル管理を行います。最大10組です。

(6) PAGE

0～**9** : プログラム1つに対して0～9のページ管理を行います。

(7) FILE

00/50～**49/99** : ページ1つに対して0～99のファイル管理を行います。

00 ORDER : 0～49のファイルを選択する時に押します。

50 ORDER : 50～99のファイルを選択する時に押します。

静止画素材のファイルは緑色に、

動画素材のファイルは赤色で点灯します。

(8) EDIT

編集を行います。

EDIT : 編集モードに入ります。

COPY : ファイルをコピーします。

DEL : ファイルを削除します。

DEL INHI : ファイルに削除禁止の設定をします。

WRITE : ファイルの書き込みを行います。

MOVIE WRITE : ファイルの書き込みを行います。

FILL : 橙色の点灯でFILL信号の書き込みを行います。

KEY : 橙色の点灯でKEY信号の書き込みを行います。

AUDIO : 橙色の点灯でAUDIO信号の書き込みを行います。

IN/OUT : ファイルのIN点、OUT点を設定します。

CONFIRM : 編集内容の確認をするときに押します。

(9) TRANSITION

ファイルをPROGRAM OUTへ送出する際の、トランジションを設定します。

また、ロールの方向やスピード、出力ポジションの設定もここでを行います。

SCROLL :スクロールのトランジションを行います。

SIDE WIPE :片開きワイプのトランジションを行います。

CENT WIPE :両開きワイプのトランジションを行います。

SLIDE :スライドインのトランジションを行います。

DISLV :ディゾルブ(クロスフェード)のトランジションを行います。

FADE :フェードのトランジションを行います。

CUT :カットのトランジションを行います。

TRANS SPEED :ロータリーエンコーダーと併せてトランジションの速度を設定します。

H POSI :ロータリーエンコーダーと併せて送出時の水平位置を調整します。

V POSI :ロータリーエンコーダーと併せて送出時の垂直位置を調整します。

十字カーソル

↑ CLOSE :上方向のトランジションを指定します。

→ OPEN :右方向のトランジションを指定します。

↓ CLOSE :下方向のトランジションを指定します。

← OPEN :左方向のトランジションを指定します。

(10) DISPLAY

トランジションスピード、H/Vポジションの値を表示します。

(11) ROTARY ENCODER

トランジションスピード、H/Vポジションの値を設定します。速く動かすと可変量が増大します。

(12) MOVIE

START :動画ファイルを再生します。

STOP :動画が再生されている時、一時停止します。

(13) NEXT

BACK :PREVIEW OUTへファイル番号が小さい方向のファイルを読み出します。

NEXT :PREVIEW OUTへファイル番号が大きい方向のファイルを読み出します。

(14) CHG/EXEC

送出モードではファイルの送出スイッチに、編集モードではファイルの記録、コピー、削除等の実行スイッチとして使われます。

4. 操作パネル背面

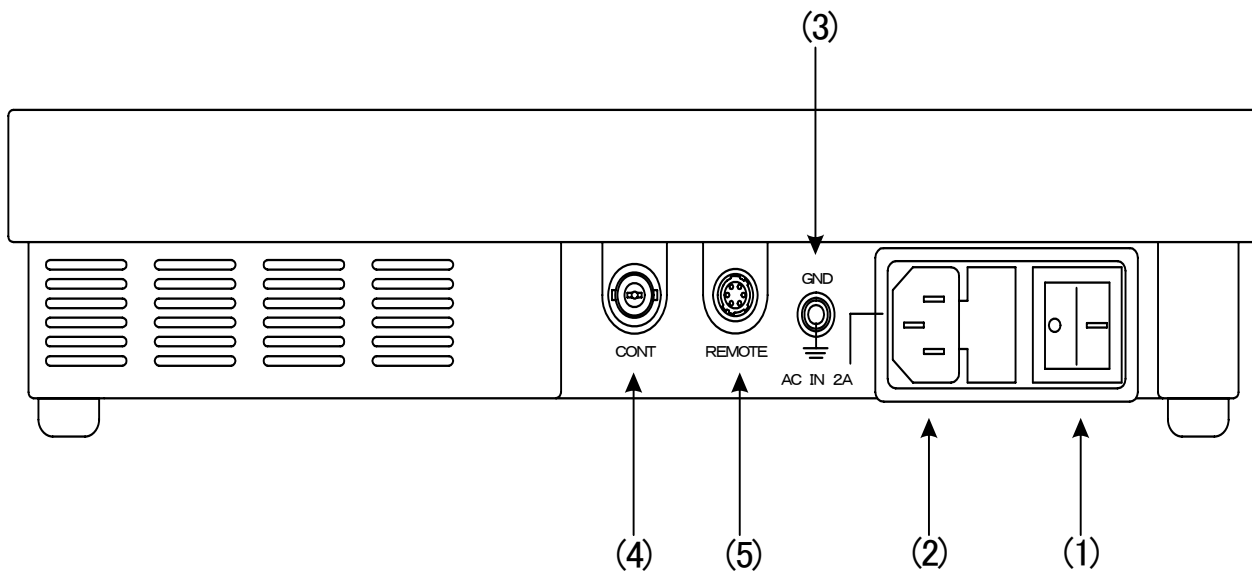


図3-4 操作パネル背面

(1)POWER

ダイレクトパネルの電源ON/OFFスイッチです。

(2)AC IN

3端子のAC電源コネクタです。AC100Vのコンセントに付属の電源ケーブルを接続します。
電源コネクタはヒューズホルダー付きです。出荷時は2Aのヒューズが実装されています。

(3)GND

シャーシ本体のグラウンド端子です。

(4)CONT

本体と同軸ケーブルで接続します。

(5)REMOTE

拡張用の接点入出力端子です。

4. 操作方法

1. 起動画面

本体電源スイッチをONします。POWERランプが点灯し、PREVIEW OUTに下図のメニューが表示されます。

本体が立ち上がると前回終了時またはリードモード**の設定でファイルが読み出され、ボタンが点灯します。

**リードモードの詳細は「システムモード」(P.14)、「READ SEND」(P.15)を参照してください。

```
MULTI FILE
MF-9941HD-D
VER 1.00
LOADING HDD
FILL KEY XXXX
AUDIO XXXX
PARTITION 0
IP ADRS 000.000.000.000
```

2. 操作概要

MF-9941HD-Dは主に以下の3種類の動作モードがあります。

動作モード	設定の方法	主な用途
送出モード	EDIT 、 SYS を消灯させる。	・ファイルの送出
編集モード	EDIT を点灯させる。	・動画、静止画、音声素材の記録 ・IN/OUT 点の編集 ・FILL と KEY のタイミング調整 ・H/V 表示位置の調整 ・ファイルのコピー、削除 ・ループ属性の設定 (FILE PROPERTY)
システムモード	SYS を点灯させる。	・ゲンロックタイミングの調整 ・リードモードの設定 ・バックアップ ・ネットワークの設定 ・リモートチェンジ入力の設定 ・内蔵パターンの表示 ・ハードディスクのフォーマット ・タリーディレイの設定 ・パーティションの選択

EDIT、**SYS**を押すことにより、各モードを選択することができます。

*文中の□で囲まれている単語は操作パネル上のスイッチを意味します。

3. 全モード共通の操作

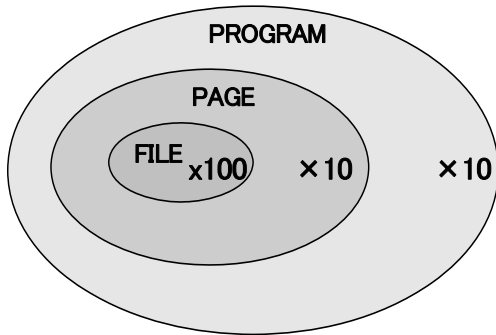
メニュー表示のON/OFF

いつでもMENUの**ON/OFF**を押すことで、PREVIEW OUTにメニューが表示されます。ONの時はスイッチが橙色に点灯し、OFFの時は消灯します。

なお、電源起動時のメニュー表示はONになっています。

4. ファイル構造について

操作パネルではファイルを下図の階層で管理しています。



MF-9941HD-Dファイル構造概念図

10組のPROGRAMの中に、それぞれ10枚のPAGEがあり、更にその中にそれぞれ100個のFILEがあります。カテゴリに分けて自由にファイルを割り当ててください。

FILEのダイレクトスイッチは50個ですが、**00 ORDER**、**50 ORDER**のスイッチを切り替えて100のファイルに対応しています。

00 ORDERが橙色に点灯している時は、FILEのダイレクトスイッチが0～49のファイル番号に割り当てられ、**50 ORDER**が橙色に点灯している時は、FILEのダイレクトスイッチが50～99のファイル番号に割り当てられます。

5. トランジションについて

本機はファイル毎にトランジション属性を持たせることができます。

トランジション属性はPRESET送出時、ファイル映像をPREVIEW OUTからPROGRAM OUTにチェンジした時に反映されます。

また、黒み挿入付きPRESET送出においては、黒画面からファイル映像に切り替わる時と、ファイル映像から黒画面に切り替わる時にその属性が反映されます。

トランジション属性の与え方は以下の3通りの方法があります。

- 1) 書き込み時にトランジション属性を設定する。
- 2) FILE PROPERTYでトランジション属性を設定、または変更する。
- 3) PRESET送出時にトランジション属性を変更する。

1)、2)の方法はHDDIにトランジション属性が記録されますが、3)は一時的なもので送出を終えるとその属性は元に戻ります。

本機で可能なトランジションの種類は次の通りです。

SCROLL : 任意の方向にスクロールして切り替わります。

SIDE WIPE : 任意の方向にワイプして切り替わります。

CENTER WIPE : 縦、横方向のオープン、クローズタイプのワイプです。

SLIDE : 任意の方向にスライドインして切り替わります。

DISLV : クロスフェードして切り替わります。

FADE : フェードアウトした直後フェードインして切り替わります。キーのみがフェードします。

CUT : カットで切り替わります。

CUT以外のトランジションは2～300フレームの範囲で設定できます。

6. 送出ポジションについて

本機はファイル毎にポジション属性を持たせることができます。ポジション値は水平方向、垂直方向に2ドット、2ライン単位で設定できます。

ポジション属性の与え方は以下の2通りの方法があります。

- 1) FILE PROPERTYでポジション属性を設定、または変更する。
- 2) PRESET送出時にポジション属性を変更する。

1)の方法はHDDにポジション属性が記録されますが、2)は一時的なもので送出を終えるとその属性は元に戻ります。

7. ループについて

本機はファイル毎にループ属性を持たせることができます。

ループ属性の与え方は以下の2通りの方法があります。

- 1) FILE PROPERTYでポジション属性を設定、または変更する。
- 2) PRESET送出時にポジション属性を変更する。

1)の方法はHDDにポジション属性が記録されますが、2)は一時的なもので送出を終えるとその属性は元に戻ります。設定可能なループ属性は次の通りです。

A/V SEPA : 動画と音声各有各の記録時間(またはIN点からOUT点までの時間)でループ再生します。

A/V SYNC : 動画または音声の記録時間の長い(またはOUT点が遅い)ファイルに同期してループ再生します。

8. システムモード

システムモードでは環境設定を行います。どのモードからでもSYSを押すことでシステムモードに入り、スイッチは橙色に点灯します。再度SYSを押すとスイッチは消灯し送出モードになります。

システムモードに入ると、メニューは下図のようになります。

```
SYSTEM MODE MENU

⇒GENLOCK
  READ SEND
  BACK UP
  NETWORK
  REMOTE
  PATTERN
  FORMAT
  TALLY DELAY
  PARTITION
```

各項目で行える処理や環境設定の内容は次の通りです。

GENLOCK : システムに合わせてゲンロックタイミングを調整します。

READ SEND : 電源起動時に読み出すファイルを設定します。

BACK UP : すべてのデータをHDDにバックアップします。

NETWORK : 選択したファイルにネットワークから画像ファイルを受信します。

- REMOTE** : リモートチェンジ入力のON/OFFを設定します。
- PATTERN** : 選択したファイルに内蔵パターンを発生させ記録します。
- FORMAT** : HDDと全ページのファイルをフォーマットします
- TALLY DELAY** : 動画再生開始時のタリー接点パルスを任意の遅延で、3パターン出力できます。
- PARTITION** : 電源起動時に読み出すパーティションを設定します。
- 項目の選択は十字カーソル(↑CLOSE、↓CLOSE)、設定の登録にはCHG/EXECを押します。

(1) GENLOCK

システムに合わせてゲンロックタイミングを調整しますGENLOCKを選択すると下図のメニューが表示されます。

```

SYSTEM MODE
GENLOCK

⇒H : 0
V : 0

```

十字カーソルでH/Vを選択しロータリーエンコーダーでタイミングを調整しCHG/EXECで決定します。

H : 水平方向のタイミングを1ドット毎に調整できます。

V : 垂直方向のタイミングを1ライン毎に調整できます。

(2) READ SEND

電源起動時に読み出すファイルを設定します。

READ SENDを選択すると下図のメニューが表示されます。

```

SYSTEM MODE
READ SEND

⇒OFF

```

ロータリーエンコーダーで電源起動時に読み出すファイルを選択しCHG/EXECで決定します。

READ SEND : OFF~090999

OFF : 前回終了時の設定でファイルを読み出します。

000000~090999 : 任意のファイルを読み出します。

左から順番に、PROGRAM(00~09)、PAGE(00~09)、FILE(00~99)です。

(3)BACK UP

すべてのデータをバックアップするモードです。BACK UPを選択すると下図のメニューが表示されます。

```
SYSTEM MODE
BACK UP

SURE?

⇒NO
YES
```

デフォルトの設定は「NO」です。

十字キーで「YES」を選択しCHG/EXECを押すとバックアップを開始します。

バックアップ中は「SAVING」のメッセージが表示されます。

(4)NETWORK

ネットワーク関係の設定をします。また選択したファイルにネットワークから画像ファイルを受信します。NETWORKを選択すると下図のメニューが表示されます。

```
SYSTEM MODE
NETWORK

⇒IP ADRS : 000. 000. 000. 000
GATEWAY : 000. 000. 000. 000
BASE : AUTO

EXECUTE
```

十字キーで項目を選択しCHG/EXECで決定します。

「IP ADRS」または「GATEWAY」を選択した場合はロータリーエンコーダーでアドレスを設定します。

「BASE」を選択した場合はロータリーエンコーダーでBASEタイプを決定します。

「EXECUTE」を選択すると「RECEIVE STANDBY」のメッセージが表示されFTP接続待ち受け状態になります。

ネットワークから画像ファイルの転送(FTP転送**)が開始されると「RECEIVING」のメッセージが表示され受信が終了すると「RECEIVE END」のメッセージが表示されます。

**FTP転送は、「FTP転送」(P.34)を参照してください。

(5)REMOTE

リモートチェンジ入力のON/OFFを設定します。

REMOTEを選択すると次頁のメニューが表示されます。

```

SYSTEM MODE
REMOTE

⇒OFF
ON

```

十字キーでON/OFFを選択しCHG/EXECで決定します。

ツマミを回すか、どれかボタンを押すと「SAVE END」のメッセージは消え、メインメニューが表示されます。

ON :リモートチェンジ入力を有効にします。

(6)PATTERN

選択したファイルに内蔵パターンを発生させ記録します。PATTERNを選択すると下図のメニューが表示されます。

```

SYSTEM MODE
PATTERN

⇒FULL
SPRIT
GRADATION
MULTI

```

十字キーでパターンを選択しCHG/EXECで決定します。

FULL :フルフィールド75%カラーバー(FILL OUT)
横方向グラデーション(KEY OUT)

SPRIT :スプリットフィールド75%カラーバー(FILL OUT)
縦方向グラデーション(KEY OUT)

GRADATION :横方向黒・白グラデーション(FILL OUT)
横ドット1%/横ライン1%(KEY OUT)

MULTI :マルチバースト(FILL OUT、KEY OUT)

(7)FORMAT

HDDをフォーマットします。

全てのパーティションのファイルが削除され、システムの設定データが初期化されます。

FORMATを選択すると次頁のメニューが表示されます。

```
SYSTEM MODE
FORMAT

SURE?

⇒NO
YES
```

CHG/EXECを押すとフォーマットを開始します。

注)フォーマットを行うとすべてのパーティションのファイルが消えてしまいます。フォーマットを行う際は十分に注意してください。

(8) TALLY DELAY

動画再生開始と同時に、3種類のトリガー接点を出力させることができます。トリガー接点は100ミリ秒です。3種類のトリガー接点は、0～9999フレームの間で、任意の遅延時間を設定することができます。

TALLY DELAYを選択すると下図のメニューが表示されます。

```
SYSTEM MODE
TALLY DELAY

⇒TALLY 1 : 0
TALLY 2 : 0
TALLY 3 : 0
```

TALLY1～3を選択すると、ロータリーエンコーダーで0～9999フレームの間で遅延時間を設定できます。TALLY1～3はP45、図6.2に示すPLAY-TALLY1～3に該当します。

TALLY DELAY :0～9999

(9) PARTITION

電源起動時に読み出すHDDのパーティションを設定します。

PARTITIONを選択すると下図のメニューが表示されます。

```
SYSTEM MODE
PARTITION

⇒0
```

ロータリーエンコーダーで電源起動時に読み出すHDDのパーティションを選択し、**CHG/EXEC**で決定します。再起動することでパーティションの設定が有効になります。

PARTITION :0~6

9. 編集モード

編集モードでは主にファイルの記録、編集を行います。

どのモードからでもEDITを押すことで編集モードに入り、スイッチは橙色に点灯します。再度EDITを押すとスイッチは消灯し送出モードになります。

編集モードに入ると、メニューは下図のようになります。

```
EDIT MODE
FILE PROPERTY

PREVIEW [0:0:00]

POSITION H:0
POSITION V:0
TRANSITION SCROLL
SPEED 300F

DATA SAVE=CHG/EXEC
```

編集モードで行われる内容は次の通りです。

STILL WRITE : 静止画、音声を記録します。

MOVIE WRITE : 動画、音声を記録します。

IN/OUT ADJUST : IN点、OUT点を設定します。

COPY : ファイル間コピーをします。

DELETE : ファイルを削除します。

DELETE INHIBIT : ファイルの削除を禁止します。

FILE PROPERTY : ファイル単位で送出時のトランジション、ポジション、ループの属性を与えます。*

**FILE PROPERTYは、EDITが橙色に点灯していて、その他のWRITE、MOVIE WRITE、COPY、DEL、DEL INHIが選択されていない状態(緑色の点灯)です。

**BACK UPは編集モードでも操作可能です。

(1) STILL WRITE

静止画、音声を記録します。

ファイル毎に送出時のトランジション属性を与えることができます。その属性はFILE PROPERTYで変更しない限り有効でファイルコピーの際、その属性もコピーされます。

- 1) 編集モードでWRITEを押すとスイッチは橙色に点灯します。記録する素材のソースをFILL、KEY、AUDIOを押して選択します。選択されたスイッチは橙色に点灯し入カスルーが出力され、下図のメニューが表示されます。

```
EDIT MODE
STILL WRITE

SOURCE FILL+KEY+AUDIO
FILE [0:0:00]
TRANSITION SCROLL
SPEED 300F

SELECT END=CONFIRM
```

SOURCE : 記録するファイルの種類
FILE : 記録するファイル番号等
TRANSITION : 記録するファイルのトランジション属性
SPEED : 記録するファイルのトランジションスピード

2) 送出時のトランジション属性を設定します。

トランジションの種類を **SCROLL**、**SIDE WIPE**、**CENT WIPE**、**SLIDE**、**DISLV**、**FADE**、**CUT** の中から選択し、その方向を十字カーソルで指定します。

トランジションのスピードは **TRANS SPEED** を選択し、操作パネル上のディスプレイで数値を確認しながらロータリーエンコーダーで設定します。その設定範囲は2~300フレームです。この設定はファイルと共にHDDに記録され、PRESET送出時に反映されます。後からトランジション属性を変更したい場合、及びトランジションについての詳細は、「FILE PROPERTY」(P.28)を参照してください。

3) 記録先のファイル番号をPROGRAMの **0** ~ **9**、PAGEの **0** ~ **9**、FILEの **00/50** ~ **49/99** の中からそれぞれ選択します。選択されたスイッチは橙色に点灯します。既に記録されているファイル番号は赤点灯(動画)または緑点灯(静止画)しています。削除禁止されているファイル番号は点滅しています。別ソースを追加する場合、例えばFILL+AUDIOの静止画を記録した後に、KEYソースを追加したい場合は、ここで緑点灯しているスイッチを押します。

4) 記録先のファイル番号を選択したら **CONFIRM** を押します。この時、下図のメニューが表示されます。

```
EDIT MODE
STILL WRITE

SOURCE FILL+KEY+AUDIO
FILE [0:0:00]
TRANSITION SCROLL
SPEED 300F

WRITE SURE?
YES=CHG/EXEC
NO=WRITE
```

5) 記録先のファイル番号は橙色に点灯し、**CHG/EXEC** で記録します。記録先にファイルが存在する場合、上書きを確認するメッセージが表示されます。

前にあるファイルを削除し新たに記録する場合はYES、記録を中断させたい場合はNOを選択します。

6) 記録終了したファイル番号は緑点灯(静止画)します。

7) 記録を続ける場合は2)~6)の操作を繰り返します。終了する場合は **EDIT** を押します。

(2) MOVIE WRITE

動画、音声を記録します。

1) 編集モードで **MOVIE WRITE** を押すとスイッチは橙色に点灯します。記録する素材のソースを **FILL**、**KEY**、**AUDIO** を押して選択します。選択されたスイッチは橙色に点灯し入力スルーが出力され、次頁のメニューが表示されます。

```

EDIT MODE
MOVIE WRITE

SOURCE FILL+KEY+AUDIO
FILE [0:0:00]

SELECT END=CONFIRM

```

SOURCE : 記録するファイルの種類

FILE : 記録するファイル番号等

- 2) 記録先のファイル番号をPROGRAMの ~ 、PAGEの ~ 、FILEの ~ の中からそれぞれ選択します。選択されたスイッチは橙色に点灯し、再度押すとキャンセルできます。既に記録されているファイル番号は赤点灯(動画)または緑点灯(静止画)しています。削除禁止されているファイル番号は点滅しています。
- 別ソースを追加する場合、例えばFILL+AUDIOの動画を記録した後に、KEYソースを追加したい場合は、ここで赤点灯しているスイッチを押します。
- 3) 記録先のファイル番号を選択したら を押します。この時、次のメニューが表示されます。

```

EDIT MODE
MOVIE WRITE

SOURCE FILL+KEY+AUDIO
FILE [0:0:00]

WRITE SURE?
YES=CHG/EXEC
NO=MOVIE WRITE

```

- 4) 記録先のファイル番号は橙色に点灯し、 で記録します。記録先にファイルが存在する場合、上書きを確認するメッセージが表示されます。
- 前にあるファイルを削除し新たに記録する場合はYES、記録を中断させたい場合はNOを選択します。
- 記録中は「WRITING」のメッセージが表示されもう一度 を押すと記録を終了します。
- 5) 記録終了したファイル番号は赤点灯(動画)します。
- 6) 記録を続ける場合は2)~4)の操作を繰り返します。終了する場合は を押します。

(3) IN/OUT ADJUST

選択したファイルのIN点、OUT点を設定します。

- 1) 編集モードで編集したいファイルを選択し、 を押すとスイッチは橙色に点灯し、次頁のメニューが表示されます。この状態で編集する素材のソースを 、、 を押して選択します。選択されたIN点、OUT点はフレーム単位で設定できます。

EDIT MODE		
IN/OUT ADJUST		
	⇒ IN	OUT
FILL	0	0
KEY	0	0
AUDIO	0	0

SET=CHG/EXEC

FILL : FILLのIN点、OUT点を設定します。

KEY : KEYのIN点、OUT点を設定します。

AUDIO : AUDIOのIN点、OUT点を設定します。

- 2) ロータリーエンコーダーを回すとIN点が変わり[CHG/EXEC]で決定します。
- 3) [IN/OUT]をもう一度押すとスイッチは赤色に点灯しOUT点の設定になります。
- 4) ロータリーエンコーダーを回すとOUT点が変わり[CHG/EXEC]で決定します。終了する場合は[EDIT]を押します。

(4) COPY

ファイルのコピーを行います。以下の3通りの方法があります。

FILE COPY : コピー元、コピー先のファイル番号を選択してファイル単位でコピーします。
複数ファイルの同時コピーや、ページ、プログラム間をまたがるコピーもできます。

PAGE COPY : コピー元、コピー先のページ番号を選択してページ単位で一括コピーします。

PROGRAM COPY : コピー元、コピー先のプログラム番号を選択してプログラム単位でコピーします。

FILE COPY

- 1) 編集モードで[COPY]を押すとスイッチは橙色に点灯し、下図のメニューが表示されます。

EDIT MODE		
COPY		
SELECT SOURCE FILES		

SELECT END=CONFIRM

- 2) コピー元のファイル番号をPROGRAMの[0]～[9]、PAGEの[0]～[9]、FILEの[00/50]～[49/99]の中からそれぞれ選択します。赤点灯(動画)または緑点灯(静止画)している登録済みのファイル番号以外は選択できません。選択したスイッチは橙色に点灯し、再度押すとキャンセルできます。
- 3) 複数ファイルの同時コピーを行う場合、更にファイル番号を選択します。コピーの際、この時押した順番にコピーされます。また、ページ、プログラムをまたがる同時選択はできません。複数選択できるのは同一ページ内です。
- 4) コピー元のファイル番号を選択したら[CONFIRM]を押します。[COPY]が、赤点灯に変わりコピー先を選択する状態になります。キャンセルする場合は[COPY]または[EDIT]を押します。

- 5) コピー先のファイル番号をPROGRAMの[0]～[9]、PAGEの[0]～[9]、FILEの[00/50]～[49/99]の中からそれぞれ選択します。選択したスイッチは橙色に点灯し、再度押すとキャンセルできます。
- 6) 複数ファイルの同時コピーを行う場合、先頭のファイルの行き先だけ選択します。コピーの際、(3)で選択した順番が反映されここで押した順番にコピーされます。また、ページ、プログラムをまたがる同時選択はできません。複数選択できるのは同一ページ内です。
- 7) コピー先のファイル番号を選択したら[CONFIRM]を押します。この時、下図のメニューが表示されます。

```

EDIT MODE
COPY

SELECT DESTIN FILES

COPY SURE?
YES=CHG/COPY
NO=COPY

```

- 8) [CHG/EXEC]でファイルコピーを実行します。ここでキャンセルする場合は[COPY]または[EDIT]を押します。コピー先にファイルが存在する場合、上書きを確認するメッセージが表示されます。前にあるファイルを削除し新たに書き込む場合はYES、書き込みを中断させたい場合は NOを選択します。またALLを選択する事によりそれ以降のファイルはすべて上書きされます。
- 9) コピーを続ける場合は2)～8)の操作を繰り返します。終了する場合は[EDIT]を押します。

PROGRAM COPY / PAGE COPY

- 1) 編集モードで[COPY]を押すとスイッチは橙色に点灯し、下図のメニューが表示されます。

```

EDIT MODE
COPY

SELECT SOURCE FILES

SELECT END=CONFIRM

```

- 2) PROGRAM COPYでは、コピー元のプログラム番号をPROGRAMの[0]～[9]、の中から選択します。緑色に点灯している登録済みのプログラム番号以外は選択できません。PAGE COPYでは、コピー元のプログラム番号、ページ番号をPROGRAMの[0]～[9]、PAGEの[0]～[9]、の中から選択します。緑色に点灯している登録済みのプログラム、またはページ番号以外は選択できません。選択したスイッチは橙色に点灯し、再度押すとキャンセルできます。
- 3) コピー元のプログラム番号、またはページ番号を選択したら[CONFIRM]を押します。[COPY]が、赤点灯に変わりコピー先を選択する状態になります。キャンセルする場合は[COPY]または[EDIT]を押します
- 4) PROGRAM COPYでは、コピー先のプログラム番号をPROGRAMの[0]～[9]、の中から選択します。緑色に点灯している登録済みのプログラム番号は選択できません。

PAGE COPYでは、コピー先のプログラム番号、ページ番号をPROGRAMの[0]~[9]、PAGEの[0]~[9]、の中から選択します。緑色に点灯している登録済みのプログラム、またはページ番号は選択できません。選択したスイッチは橙色に点灯し、再度押すとキャンセルできます。

5) コピー先のプログラム番号、またはページ番号を選択したらCONFIRMを押します。この時、下図のメニューが表示されます。

```
EDIT MODE
COPY

SELECT DESTIN FILES

COPY SURE?
YES=CHG/EXEC
NO=COPY
```

6) CHG/EXECでファイルコピーを実行します。ここでキャンセルする場合はCOPYまたはEDITを押します。

7) コピーを続ける場合は2)~6)の操作を繰り返します。終了する場合はEDITを押します。

(5)DELETE

ファイルの削除を行います。以下の3通りの方法があります。

FILE DELETE : 削除するファイル番号を選択してファイル単位で削除します。
複数ファイルの同時削除もできます。

PAGE DELETE : 削除するページ番号を選択してページ単位で一括削除します。

PROGRAM DELETE : 削除するプログラム番号を選択してプログラム単位で一括削除します。

FILE DELETE

1) 編集モードでDELを押すとスイッチは橙色に点灯し、下図のメニューが表示されます。

```
EDIT MODE
DELETE

SELECT DELETE FILES

SELECT END=CONFIRM
```

2) 削除するファイル番号をPROGRAMの[0]~[9]、PAGEの[0]~[9]、FILEの[00/50]~[49/99]の中からそれぞれ選択します。赤点灯(動画)または緑点灯(静止画)している登録済みのファイル番号以外は選択できません。選択したスイッチは橙色に点灯し、再度押すとキャンセルできます。

3) 複数ファイルの同時削除を行う場合、更にファイル番号を選択します。なお、ページ、プログラムをまたがる同時選択はできません。複数選択できるのは同一ページ内です。

4) 削除するファイル番号を選択したらCONFIRMを押します。この時、次頁のメニューが表示されます。

```
EDIT MODE
DELETE

SELECT DELETE FILES

DELETE SURE?
YES=CHG/EXEC
NO=DEL
```

5) 削除するファイル番号は橙色に点滅し、**CHG/EXEC**でファイルの削除を実行します。ここでキャンセルする場合は**DEL**または**EDIT**を押します。

6) 削除を続ける場合は2)～5)の操作を繰り返します。終了する場合は**EDIT**を押します。

PROGRAM DELETE / PAGE DELETE

1) 編集モードで**DEL** を押すとスイッチは橙色に点灯し、下図のメニューが表示されます。

```
EDIT MODE
DELETE

SELECT DELETE FILES

SELECT END=CONFIRM
```

2) PROGRAM DELETEでは、削除するプログラム番号をPROGRAMの**0**～**9**、の中から1つ選択します。緑色に点灯している登録済みのプログラム番号以外は選択できません。

PAGE DELETEでは、削除するプログラム番号、ページ番号をPROGRAMの**0**～**9**、PAGEの**0**～**9**の中から1つ選択します。緑色に点灯している登録済みのプログラム、またはページ番号以外は選択できません。

選択したスイッチは橙色に点灯し、再度押すとキャンセルできます

3) 削除するプログラム番号、またはページ番号を選択したら**CONFIRM**を押します。この時、下図のメニューが表示されます。

```
EDIT MODE
DELETE

SELECT DELETE FILES

SELECT END=CONFIRM
```

4) 削除するプログラム番号、またはページ番号が橙色に点灯し、**CHG/EXEC**で削除を実行します。ここでキャンセルする場合は**DEL**または**EDIT**を押します。

5) 削除を続ける場合は2)～4)の操作を繰り返します。終了する場合は**EDIT**を押します。

(6)DELETE INHIBIT

ファイル毎に、あるいはプログラム、ページ単位で削除禁止の設定を行います。

この設定を行うと誤ってファイル削除の操作を行っても削除は実行されません。

以下の3通りの方法があります。

FILE DELETE INHIBIT :ファイル単位で削除禁止設定、または解除を行います。複数ファイルの同時設定、解除もできます。

PAGE DELETE INHIBIT :ページ単位で削除禁止設定、または解除を行います。

PROGRAM DELETE INHIBIT :プログラム単位で削除禁止設定、または解除を行います。

なお、削除禁止を行ったファイルを含むプログラム、あるいはページの削除を実行した場合、削除禁止を行ったファイルのみ削除されずに残ります。削除禁止を行ったページを含むプログラムの削除においても同じです。

削除禁止されたファイル、プログラム、ページはWRITE、DELTEモードに入ると点滅します。

FILE DELETE INHIBIT

- 1)編集モードで`DEL INHI`を押すとスイッチは橙色に点灯し、下図のメニューが表示されます。

```
EDIT MODE
DELETE INHIBIT

SELECT FILES

SELECT END=CONFIRM
```

- 2)削除禁止を設定するファイル番号をPROGRAMの`0`~`9`、PAGEの`0`~`9`、FILEの`00/50`~`49/99`の中からそれぞれ選択します。赤点灯(動画)または緑点灯(静止画)している登録済みのファイル番号以外は選択できません。選択したスイッチは橙色に点灯し、再度押すとキャンセルできます。

点滅しているスイッチは既に削除禁止を設定したものです。ここで点滅しているファイル番号を選択した場合、この後の操作で**削除禁止の設定が解除されます**。

- 3)複数ファイルの削除禁止を同時に行う場合、更にファイル番号を選択します。なお、ページ、プログラムをまたがる同時選択はできません。複数選択できるのは同一ページ内です。

- 4)削除禁止を設定するファイル番号を選択したら`CONFIRM`スイッチを押します。この時、下図のメニューが表示されます。

```
EDIT MODE
DELETE INHIBIT

DEL INHI SURE?
YES=CHG/EXEC
NO=DEL INHI
```


- 5) 削除禁止をするファイル番号は橙色に点滅し、**CHG/EXEC**でファイルの削除禁止を行います。ファイル番号は点灯から点滅に変わり、削除禁止の設定が行われたことを示します。逆に(3)で点滅している削除禁止のファイルを選択した場合はここで点滅から点灯に変わり、削除禁止の設定が解除されたことを示します。ここでキャンセルする場合は**DEL INHI**または**EDIT**を押します。
- 6) 削除禁止の設定を続ける場合は2)～5)の操作を繰り返します。終了する場合は**EDIT**を押します。

PROGRAM DELETE INHIBIT / PAGE DELETE INHIBIT

- 1) 編集モードで**DEL INHI**を押すとスイッチは橙色に点灯し、下図のメニューが表示されます。

```

EDIT MODE
DELETE INHIBIT

SELECT FILES

SELECT END=CONFIRM

```

- 2) PROGRAM DELETE INHIBITでは、削除禁止するプログラム番号をPROGRAMの**0**～**9**の中から選択します。緑色に点灯している登録済みのプログラム番号以外は選択できません。
- PAGE DELETE INHIBITでは、削除禁止するプログラム番号、ページ番号をPROGRAMの**0**～**9**、PAGEの**0**～**9**の中から選択します。緑色に点灯または点滅している登録済みのプログラム、またはページ番号以外は選択できません。選択したスイッチは橙色に点灯し、再度押すとキャンセルできます。
- 点滅しているスイッチは既に削除を設定したものです。ここで点滅しているファイル番号を選択した場合、この後の操作で**削除禁止の設定が解除されます**。
- 3) 削除禁止を設定するプログラム番号、またはページ番号を選択したら**CONFIRM**スイッチを押します。この時、下図のメニューが表示されます。

```

EDIT MODE
DELETE INHIBIT

DEL INHI SURE?
YES=CHG/EXEC
NO=DEL INHI

```

- 4) 削除禁止するプログラム番号、またはページ番号が点滅し、**CHG/EXEC**で削除禁止を行います。ここでキャンセルする場合は**DEL INHI**または**EDIT**を押します。
- 5) 削除禁止の設定を続ける場合は2)～4)の操作を繰り返します。終了する場合は**EDIT**を押します。

(7) FILE PROPERTY

ファイル単位で送出時のトランジション、ポジション、ループの属性を設定、変更します。

なお、これらの属性はHDDに記録され、FILE PROPERTYで属性を変更しない限り有効で、ファイルコピーの際にもその属性はコピーされます。

TRANSITION属性の設定

- 1) 編集モードに入ると下図のメニューが表示されます。その他のWRITE、MOVIE WRITE、COPY、DEL、DEL INHが選択されていない状態(緑色の点灯)です。

```
EDIT MODE
FILE PROPERTY

PREVIEW [0:0:00]

POSITION H:0
POSITION V:0
TRANSITION SCROLL
SPEED 300F

DATA SAVE=CHG/EXEC
```

- 2) トランジション属性を設定するファイル番号をPROGRAMの0～9、PAGEの0～9、FILEの00/50～49/99の中からそれぞれ選択します。緑点灯(静止画)している登録済みのファイル番号以外は選択できません。選択したスイッチは橙色に点滅し、PREVIEW OUTにファイルが出力されます。DIRECTが点灯している時はPROGRAM OUTにも出力されます。
- 3) トランジションの種類をSCROLL、SIDE WIPE、CENT WIPE、SLIDE、DISLV、FADE、CUTの中から選択し、その方向を十字カーソルで指定します。
トランジションのスピードはTRANS SPEEDを選択し、操作パネル上のディスプレイで数値を確認しながらロータリーエンコーダーで設定します。その設定範囲は2～300フレームです。
これらの設定内容はメニューで確認することができます。
- 4) トランジションの種類、方向、スピードを選択したらCHG/EXECを押します。この設定はファイルと共にHDDに記録され、PRESET送出時に反映されます。
ここでキャンセルする場合は他のファイル番号、またはEDITを押します。
- 5) トランジション属性の設定を続ける場合は2)～4)の操作を繰り返します。終了する場合はEDITを押します。

POSITION属性の設定

1) 編集モードに入ると下図のメニューが表示されます。その他のWRITE、MOVIE WRITE、COPY、DEL、DEL INHが選択されていない状態(緑色の点灯)です。

```
EDIT MODE
FILE PROPERTY

PREVIEW [0:0:00]

POSITION    H:0
POSITION    V:0
TRANSITION  SCROLL
SPEED       300F

DATA SAVE=CHG/EXEC
```

2) POSITION属性を設定するファイル番号をPROGRAMの0～9、PAGEの0～9、FILEの00/50～49/99の中からそれぞれ選択します。赤点灯(動画)または緑点灯(静止画)している登録済みのファイル番号以外は選択できません。選択したスイッチは橙色に点滅し、PREVIEW OUTにファイルが出力されます。DIRECTが点灯している時はPROGRAM OUTにも出力されます。

3) 水平方向のポジションを変更する場合はH POSIを、垂直方向のポジションを変更する場合はV POSIを選択し、橙色に点灯させます。表示位置をPREVIEW OUT、あるいはDIRECTが点灯している時はPROGRAM OUTで確認しながら、ロータリーエンコーダーで設定します。移動量は2ドット、2ライン単位で設定でき、操作パネル上のディスプレイに表示されます。これらの設定内容はメニューで確認する事ができます。

4) ポジションの値を決定したらCHG/EXECを押します。この設定はファイルと共にHDDに記録され、PRESET送出時に反映されます。ここでキャンセルする場合は他のファイル番号、またはEDITを押します。

5) POSITION属性の設定を続ける場合は2)～4)の操作を繰り返します。終了する場合はEDITを押します。

LOOP属性の設定

1) 編集モードに入ると下図のメニューが表示されます。その他のWRITE、MOVIE WRITE、COPY、DEL、DEL INHが選択されていない状態(緑色の点灯)です。

```
EDIT MODE
FILE PROPERTY

PREVIEW [0:0:00]

POSITION    H:0
POSITION    V:0
TRANSITION  SCROLL
SPEED       300F

DATA SAVE=CHG/EXEC
```

2) LOOP属性を設定するファイル番号をPROGRAMの0～9、PAGEの0～9、FILEの00/50～49/99の中からそれぞれ選択します。赤点灯(動画)または緑点灯(静止画)している登録済みのファイル番号以外は選択できません。選択したスイッチは橙色に点滅し、PREVIEW OUTにファイルが出力されます。DIRECTが点灯している時はPROGRAM OUTにも出力されます。

3) **A/V SEPA**、**A/V SYNC**のいずれかを選択します。

4) LOOP属性を決定したら**CHG/EXEC**を押します。この設定はファイルと共にHDDに記録され、PRESET送出時に反映されます。ここでキャンセルする場合は他のファイル番号、または**EDIT**を押します。

5) LOOP属性の設定を続ける場合は3)～5)の操作を繰り返します。終了する場合は**EDIT**を押します。

**FILE PROPERTYで設定するトランジション、ポジション、ループの各属性は送出モードでファイルを送出する際に、各スイッチで設定することで一時的に変更することができます。

10. 送出モード

送出モードではファイルの再生を行います。**SYS**、**EDIT**の両方のスイッチが消灯している状態が送出モードになります。**SYS**、**EDIT**のどちらかのスイッチが点灯している場合、点灯している方のスイッチを押して消灯させます。送出モードに入ると、メニューは下図のようになります。

```

PLAY

PROGRAM [0:0:00]
PREVIEW [0:0:00]

POSITION   H:0   V:0
TRANSITION CUT
    
```

PROGRAM : PROGRAM OUTに出力されているファイル番号

PREVIEW : PREVIEW OUTに出力されているファイル番号

POSITION : PREVIEW OUTに出力されているファイルのポジション属性

TRANSITION : PREVIEW OUTに出力されているファイルのトランジション属性

送出には次の3形式があり、用途に合わせて選択できます。

動画はすべてDIRECT送出になります。

送出形式	設定方法	基本動作
DIRECT 送出	送出モードにて DIRECT を点灯させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・選択した番号のファイルを直接 PROGRAM、PREVIEW に送出します。 ・CHG/EXECで後続のファイルをトランジション無しで PROGRAM、PREVIEW に送出します。 ・PROGRAM、PREVIEW 双方の映像は同じで、選択されているファイル番号は橙色に点灯します。
PRESET 送出	送出モードにて PRESET を点灯、 BLACK を消灯させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・選択した番号のファイルは一旦 PREVIEW に読み出され、CHG/EXECで PROGRAM にトランジションを伴い送出されます。この時 PREVIEW には後続のファイルが読み出されます。 ・PROGRAM を示すファイル番号は橙色に点灯し、PREVIEW を示すファイル番号は橙色に点滅します。
黒み挿入 PRESET 送出	送出モードにて PRESET 、 BLACK を点灯させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ファイル間に黒画面を挿入します。 ・選択した番号のファイルは一旦 PREVIEW に読み出され、CHG/EXECで PROGRAM にトランジションを伴い送出されます。この時 PREVIEW には黒画面が準備され、次の CHG/EXECで PROGRAM にトランジションを伴い黒画面が送出されます。PREVIEW には後続のファイルが読み出されます。 ・ファイルのトランジション属性は、黒画面からファイル映像に切り替わる時と、ファイル映像から黒画面に切り替わる時に反映されます。

(1)DIRECT送出

選択した番号のファイルを直接PROGRAM OUT、PREVIEW OUTに送出します。

**動画はすべてこのモードで送出されます。

CHG/EXECで後続のファイルをトランジション無しで送出します。後続のファイルが存在しない場合、自動的に次のページのファイルに移ります。9ページ目の最後のファイルまで読み出すと次のプログラムには移らず止まります。常にPROGRAM OUT、PREVIEW OUT双方の映像は同じで、選択されているファイル番号は橙色に点灯します。

DIRECT送出

1) 送出モードで**DIRECT**を押します。スイッチは橙色に点灯します。

2) 送出元のファイル番号をPROGRAMの**0**～**9**、PAGEの**0**～**9**、FILEの**00/50**～**49/99**の中からそれぞれ選択します。

ここで選択できる番号は既に登録済みの赤点灯(動画)または緑点灯(静止画)しているスイッチです。選択した番号は橙色に点灯し、PROGRAM OUT、PREVIEW OUTにそのファイルが送出されていることを示します。この時下図のメニューが表示されます。

```
PLAY  
  
PROGRAM [0:0:00]  
PREVIEW [0:0:00]  
  
POSITION      H:0      V:0  
TRANSITION CUT
```

3) 送出するファイルは個々のポジション属性が反映されていますが、ここで一時的に変更することもできます。水平方向のポジションを変更する場合は**H POS**を、垂直方向のポジションを変更する場合は**V POS**を選択し、橙色に点灯させます。表示位置はロータリーエンコーダーを動かしながらPREVIEW OUT、あるいはPROGRAM OUTで確認します。設定範囲は任意で、2ドット、2ライン単位です。

4) 選択した番号が動画の場合、緑色に点灯している**START**を押すと再生を開始、**STOP**で停止します。ここで**START**を押すと停止した位置からまた再生を始めます。更に、停止した状態で**STOP**を押すと動画の先頭位置でスタンバイ状態となります。

5) 後続のファイルを続けて送出する時は**CHG/EXEC**を押します。任意のファイルを送出する場合は2)～4)の操作を繰り返します。

(2)PRESET送出

選択した番号のファイルは一旦PREVIEW OUTに読み出され、**CHG/EXEC**でPROGRAM OUTにトランジションを伴い送出されます。この時PREVIEW OUTには後続のファイルが読み出されます。後続のファイルが存在しない場合、自動的に次のページのファイルに移ります。9ページ目の最後のファイルまで読み出すと次のプログラムには移らず止まります。

PROGRAM OUTに送出されているファイル番号は橙色に点灯し、NEXTに読み出されているファイル番号は橙色に点滅します。

PRESET送出

- 1) 送出モードで[PRESET]を押し、橙色に点灯させます。この時[BLACK]を消灯した状態にします。
- 2) 送出元のファイル番号をPROGRAMの[0]～[9]、PAGEの[0]～[9]、FILEの[00/50]～[49/99]の中からそれぞれ選択します。ここで選択できる番号は既に登録済みの緑点灯(静止画)しているスイッチです。選択した番号は橙色に点滅し、PREVIEW OUTにそのファイルが送出されていることを示します。この時下図のメニューが表示されます。
POSITION、TRANSITIONはPREVIEWに出力されているファイルの属性です。

```
PLAY  
  
PROGRAM [0:0:00]  
PREVIEW [0:0:00]  
  
POSITION      H:0      V:0  
TRANSITION CUT
```

- 3) 送出するファイルは個々のトランジション属性、ポジション属性が反映されていますが、ここで一時的に変更することもできます。

[トランジション属性の変更]

トランジションの種類を[SCROLL]、[SIDE WIPE]、[CENT WIPE]、[SLIDE]、[DISLV]、[FADE]、[CUT]の中から選択し、その方向を十字カーソルで指定します。

トランジションのスピードは[TRANS SPEED]を選択し、操作パネル上のディスプレイで数値を確認しながらロータリーエンコーダーで設定します。設定範囲は2～300フレームです。

[ポジション属性の変更]

水平方向のポジションを変更する場合は[H POS]を、垂直方向のポジションを変更する場合は[V POS]を選択し、橙色に点灯させます。表示位置はロータリーエンコーダーを動かしながらPREVIEW OUTで確認します。設定範囲は任意で、2ドット、2ライン単位です。

これらの設定内容はメニューで確認することができます。

- 4) [CHG/EXEC]を押すとPREVIEW OUTに出力されているファイルがPROGRAM OUTにトランジションを伴い送出されます。この時PREVIEW OUTには後続のファイルが読み出されます。
- 5) 続けてPREVIEW OUTに出力されているファイルを送出する時は[CHG/EXEC]を押します。任意のファイルを送出する場合は2)～4)の操作を繰り返します。

(3) 黒み挿入PRESET送出

ファイル間に黒画面を挿入します。

選択した番号のファイルは一旦PREVIEW OUTに読み出され、[CHG/EXEC]でPROGRAM OUTにトランジションを伴い送出されます。この時PREVIEW OUTには黒画面が準備され、次の[CHG/EXEC]でPROGRAM OUTにトランジションを伴い黒画面が送出されます。PREVIEW OUTには後続のファイルが読み出されます。後続のファイルが存在しない場合、自動的に次のページのファイルに移ります。9ページ目の最後のファイルまで読み出すと次のプログラムには移らず止まります。

ファイルのトランジション属性は、黒画面からファイル映像に切り替わる時と、ファイル映像から黒画面に切り替わる時に反映されます。PROGRAM OUTに送出されているファイル番号は橙色に点灯し、PREVIEW OUTに読み出されているファイル番号は橙色に点滅します。

黒み挿入PRESET送出

- 1) 送出モードでPRESET、BLACKを押し、両方橙色に点灯させます。
- 2) 送出元のファイル番号をPROGRAMの0～9、PAGEの0～9、FILEの00/50～49/99の中からそれぞれ選択します。ここで選択できる番号は既に登録済みの緑点灯(静止画)しているスイッチです。選択した番号は橙色に点滅し、NEXTにそのファイルが送出されていることを示します。この時下図のメニューが表示されます。

POSITION、TRANSITIONはPREVIEWに出力されているファイルの属性です。

PROGRAM OUTには黒画面が出力されていることを示します。

```
PLAY
PROGRAM [BLACK ]
PREVIEW [0:0:00]
POSITION      H:0      V:0
TRANSITION CUT
```

- 3) 送出するファイルは個々のトランジション属性、ポジション属性が反映されていますが、ここで一時的に変更することもできます。

[トランジション属性の変更]

トランジションの種類をSCROLL、SIDE WIPE、CENT WIPE、SLIDE、DISLV、FADE、CUTの中から選択し、その方向を十字カーソルで指定します。

トランジションのスピードはTRANS SPEEDを選択し、操作パネル上のディスプレイで数値を確認しながらロータリーエンコーダーで設定します。設定範囲は2～300フレームです。

[ポジション属性の変更]

水平方向のポジションを変更する場合はH POSを、垂直方向のポジションを変更する場合はV POSを選択し、橙色に点灯させます。表示位置はロータリーエンコーダーを動かしながらPREVIEW OUTで確認します。設定範囲は任意で、2ドット、2ライン単位です。

これらの設定内容はメニューで確認することができます。

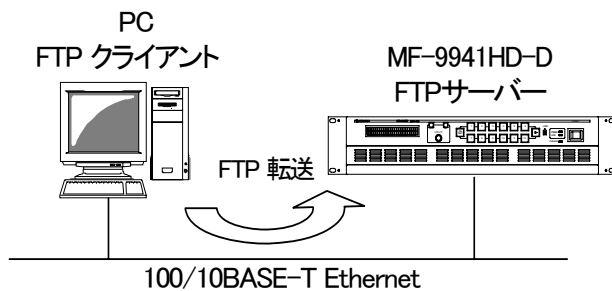
- 4) CHG/EXECを押すとPREVIEW OUTに出力されているファイルがPROGRAM OUTにトランジションを伴い送出されます。この時PREVIEW OUTには黒画面が出力されます。
- 5) CHG/EXECを押すとPREVIEW OUTに出力されている黒画面がPROGRAM OUTにトランジションを伴い送出されます。PREVIEW OUTには後続のファイルが読み出されます。
- 6) 続けてPREVIEW OUTに出力されているファイルを送出する時はCHG/EXECを押します。任意のファイルを送出する場合は2)～5)の操作を繰り返します

5. FTP転送

1. 概要

TCP/IPネットワークに接続されたMF-9941HD-DのFTPサーバ機能を使用して、PC等の作画機で作成したTIFF形式の画像ファイルをFTPクライアントからFTPプロトコルを使用してMF-9941HD-Dに静止画、または動画として転送できます。

2. 接続



3. ネットワーク設定

システムモードで、NETWORK**を選択すると下図のメニューが表示されます。ここでネットワーク管理者から割り当てられたアドレスを設定します。

**「NETWORK」(P.16)を参照してください。

```
SYSTEM MODE
NETWORK

⇒ IP ADRS : 000. 000. 000. 000
GATEWAY : 000. 000. 000. 000
BASE      : AUTO

EXECUTE

SET=CHG/EXEC
```

IP : ネットワーク管理者から割り当てられたIP(インターネットプロトコル)アドレスを設定するモードです。

GATEWAY : デフォルトゲートウェイのアドレスを設定するモードです。
ゲートウェイを使用しない場合は「000.000.000.000」を設定します。

BASE : BASEタイプを選択するモードです。(AUTO/10BASE/100BASE)

IP、GATEWAYは設定後、MF-9941HD-Dの電源を立ち上げなおすことにより各アドレスが反映されます。

PC側のネットワーク設定はPC付属の取扱説明書を参照してください。

4. ネットワーク接続の確認

MF-9941HD-DとPCクライアントが正常にネットワークで接続されているかを“ping”コマンドで確認します。ここでは仮にMF-9941HD-DのIPアドレスを「192.168.1.10」とします。

MF-9941HD-Dの電源が入っていることを確認してください。

Windowsの場合

スタート→プログラム→MS-DOSプロンプト(またはコマンドプロンプト)を起動します。

そこから“ping 192.168.1.10”を入力し以下のようなメッセージが表示されるのを確認してください。

```
C:\>ping 192.168. 1.10

Pinging 192.168. 1.10 with 32 bytes of data :

Reply from 192.168. 1.10: bytes=32 time<10ms TTL=128
Reply from 192.168. 1.10: bytes=32 time<10ms TTL=128
Reply from 192.168. 1.10: bytes=32 time<10ms TTL=128
Reply from 192.168. 1.10: bytes=32 time<10ms TTL=128

C:\>
```

“Reply from …”と表示されればOKですが、“Request time out”のメッセージが表示された場合PCクライアントからの接続が正常に行えていません。ケーブルの接続、MF-9941HD-DおよびPCクライアントのネットワーク設定を確認してください。

5. 転送ファイル仕様

ネットワークモードの実行**でファイルの受信を行います。ファイルは先頭フレームから転送した順番に保存されます。

**ネットワークモードの実行は「NETWORK」(P.16)を参照してください。

TIFFファイル仕様

画像サイズ 1920×1080(1080i)

フォーマット Intel (IBM) または Motorola(Macintosh) 形式

圧縮方式 非圧縮

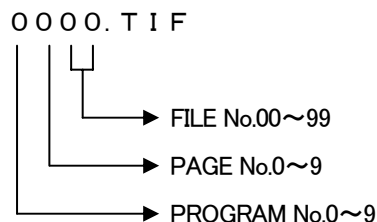
カラー RGBまたはRGB α 各8ビット

拡張子 TIF

注)画像サイズが1920x1080(1080i)より小さい画像の場合は周囲が黒に、はみ出た場合は画像が切り捨てられます。

書き込み先指定ファイル

ファイル名を以下のように数字4桁にするとパネルで書き込み先を指定しなくても書き込むことができます。



書き込み先指定がされると、パネルの状態もそれに合わせて変わります。

4桁でなかった場合や、数字以外の文字が使用された場合、書き込み先指定はされず、従来と同様の扱いになります。

動画ファイルの場合は先頭のファイルだけ書き込み先指定をし、以降は4桁の数字以外のファイル名にしておきます。

6. FTP 転送操作手順(例)

FTPを使用してファイルの転送を行います。PCクライアントはWindows PCを使用します。

ここでは仮にMF-9941HD-DのIPアドレスを「192.168.1.10」とします。

(1) MF-9941HD-D受信準備

記録先のファイル番号をPROGRAMの ~ 、PAGEの ~ 、FILEの ~ の中からそれぞれ選択します。選択されたスイッチは橙色に点灯します。既に記録されているファイル番号は赤点灯(動画)または緑点灯(静止画)しています。ここでネットワークモードを選択すると下図のメニューが表示されます。十字キーで「EXECUTE」を選択し で決定します。

```
SYSTEM MODE
NETWORK

IP ADRS : 192. 168. 001. 010
GATEWAY : 000. 000. 000. 000
BASE    : AUTO

⇒ EXECUTE

SET=CHG/EXEC
```

この状態で「RECEIVE STANDBY」のメッセージが表示されFTP接続の待ち受け状態になります。この状態でFTPクライアントからの接続ができます。

(2) PCクライアントからの転送

- 1) 「転送ファイル仕様」を参照し転送用の画像を用意します。
- 2) MF-9941HD-D側でネットワークモードを実行し、FTP転送可能な状態にします。
- 3) Windowsのスタートボタン→プログラム→MS-DOSプロンプトを起動します。
- 4) MS-DOSプロンプトから“ftp”コマンドを入力します。“ftp>”が表示されます。
- 5) “open 192.168.1.10”を入力します。

ユーザー名とパスワードは特に指定せず、そのままエンターを押します。

以上が正常に終了すると下図の画面になりMF-9941HD-DのFTPサーバへのログインが完了します。

```
C:\>ftp
ftp>open 192.168.1.10
Connected to 192.168.1.10
220 MF-9941HD FTP Server ready
User (xxx.xxx.xxx.xxx(none)):USER
331 Password required
Password:xxxx
230 Logged in
ftp> |
```

6) “put”コマンドで転送元ファイルを指定して転送します。

[書式]put ファイル名…ファイル名はフルパスで指定するか、ftpコマンドを入力したフォルダ内のTIFFファイルを指定します。転送が正常に終了すると下図のメッセージが表示されます。

```
ftp>binary
200 Command successful
ftp>put xxx.tif
200 PORT Command successful.
150 Opening data connection
226 Transfer complete
ftp : xxx bytes sent in x.xx Seconds xx.xxKbytes/sec.
ftp>
```

MF-9941HD-Dの画面に転送した画像が表示され、選択しているページに保存されます。

保存先にファイルが存在する場合、上書きを行うので注意してください。

転送するファイルが動画の場合は続けて“put”コマンドを使用します。転送を終了させる場合は“close”コマンドで接続を終了させます。

6. 外部インターフェース

1. GPIコネクタ

(1) 入力仕様

1) ピンアサイン

ピン番号	信号名	機能
20~35	接点信号入力	CHANGE、NEXT、BACK、WRITE、PLAY、STOP
36,37	GND	

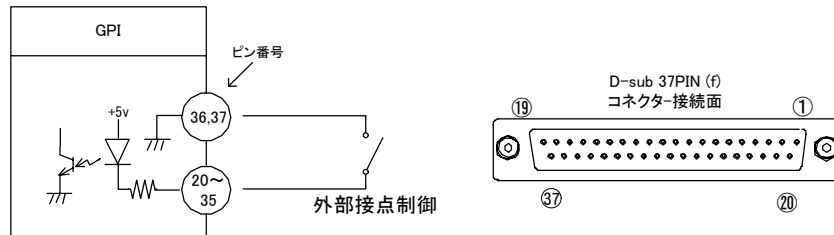


図6-1 入力仕様

注) TTL信号で制御する際は、吸い込み電流が12mAまで耐えられるデバイスで駆動してください。

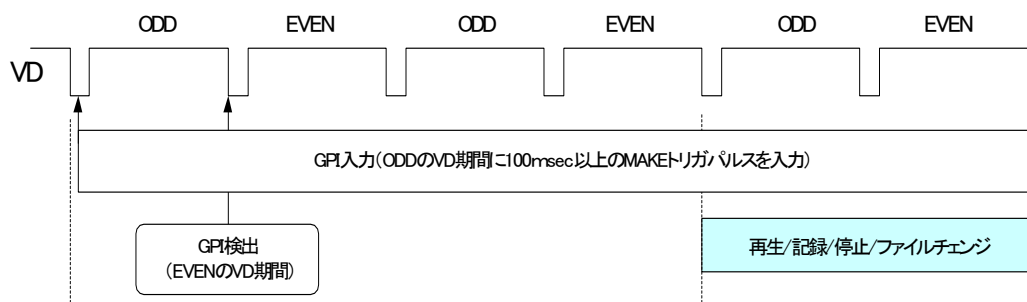
2) 機能

GPI		
ピン番号	信号名	機能
26~33	予備	未使用
20	CHANGE	動画、静止画、音声ファイルのチェンジ **1
21	NEXT	動画、静止画、音声ファイルのネクストリード **1
22	BACK	動画、静止画、音声ファイルのバックリード **1
23	WRITE	動画、静止画、音声ファイルの記録 **1
24	PLAY	動画、音声ファイルの再生 **1
25	STOP	動画、音声ファイルの停止 **1 **2
34、35	NC	未使用
36、37	GND	グラウンド

**1 100msec以上の接点パルスで動作します。同時に複数のパルスを検出した際は若い番号が優先されます。

**2 リピート指定していないファイルは「STOP」コマンドが無くても自動的に停止します。

3) タイミングチャート



(2)出力仕様

1)ピンアサイン

ピン番号	信号名	機能
1~16	接点信号出力	WRITE、PLAYのタリー等
17~19	コモン	

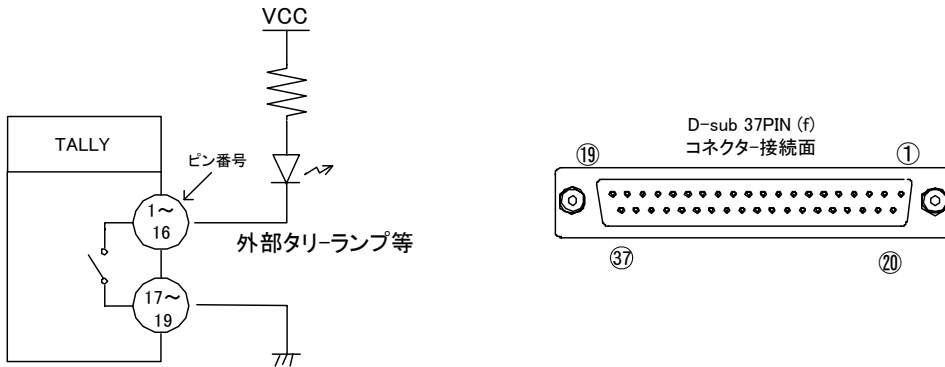


図6-2 出力仕様

注) 接点の絶対最大定格は60V、300mAです。外部抵抗で電流を300mA以下に制限してください。
15,16ピンのみ60V、200mAです。外部抵抗で電流を200mA以下に制限してください。

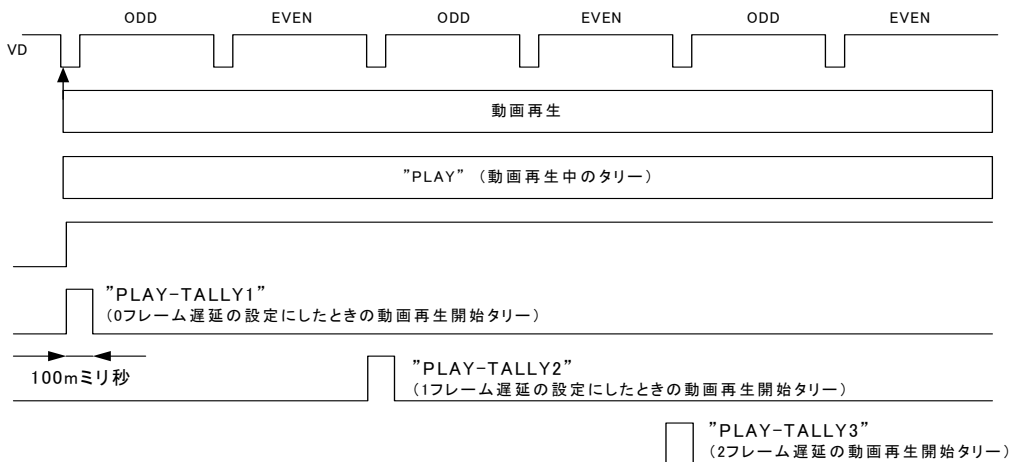
2)機能

TALLY		
ピン番号	信号名	機能
1,7~14	予備	現在未使用 **1
2	WRITE	動画、音声の記録中 CLOSE **1
3	PLAY	動画、音声の再生中 CLOSE **1
4	PLAY-TALLY1	動画再生開始から任意のフレームでCLOSE**2
5	PLAY-TALLY2	動画再生開始から任意のフレームでCLOSE**2
6	PLAY-TALLY3	動画再生開始から任意のフレームでCLOSE**2
15	FAN ALARM	動作異常 CLOSE **1
16	POWER ALARMA,B	電源A,B停止 CLOSE **1
17~19	コモン	コモン

**1 オルタネイト接点出力です。

**2 100m秒の接点パルス出力です。

3)タイミングチャート



2. RS-422 コネクタ

外部制御用シリアルポートです。(未使用)

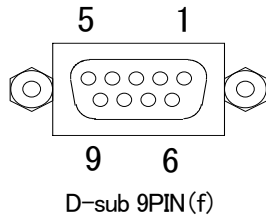


図6-3 RS-422コネクタ

ピン番号	信号名	入出力
1	—	—
2	TXD-	出力
3	RXD+	入力
4	—	—
5	—	—
6	—	—
7	TXD+	出力
8	RXD-	入力
9	GND	—

3. 10/100BASE コネクタ

LAN制御用コネクタです。ネットワークでのファイル転送に使用します。

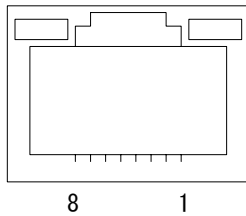


図6-4 10/100BASEコネクタ

ピン番号	信号名	入出力
1	TX+	出力
2	TX-	出力
3	RX+	入力
4	—	—
5	—	—
6	RX-	入力
7	—	—
8	—	—

7. トラブルシューティング

トラブルが発生した場合の対処方法です。

(文中の→は対処方法を示しています)

現象 本体PSY A or BのALMランプが点滅する！

原因 ・本体正面の電源スイッチはON側になっていますか？

・本体の電源ケーブルのプラグはコンセントに挿入されていますか？

・本体のヒューズは切れていませんか？

→ヒューズの交換方法は次ページの保守・点検を参照してください。

もし交換してすぐにヒューズが切れるようであれば、直ちに使用を中止し、当社製造技術部までご連絡ください。

現象 FAN ALMランプが点滅する！

原因 ・FANの吹き出し口から異音がしていませんか？

→FANの吹き出し口に埃などが目詰まりしている場合、本体の電源をOFFし、清掃してください。

異音がしている場合はFANの交換が必要です。当社製造技術部までご連絡ください。

・FANが停止していませんか？

→停止している場合はFANの交換が必要です。当社製造技術部までご連絡ください。

現象 出力映像が乱れる！

原因 ・REF信号は接続されていますか？

→ブリッジ接続されている場合は、75Ω 終端の確認をしてください。

→ブリッジ接続しない場合は、75Ω 終端スイッチをON(上側)にしてください。

お問い合わせは当社製造技術部までご連絡ください。

8. 保守・点検

1. 電源ヒューズの交換方法

本体または、ダイレクトパネルの電源ヒューズが切れた場合の交換方法です。

ヒューズ交換の際は、危険ですので必ず電源OFFの状態で作業してください。

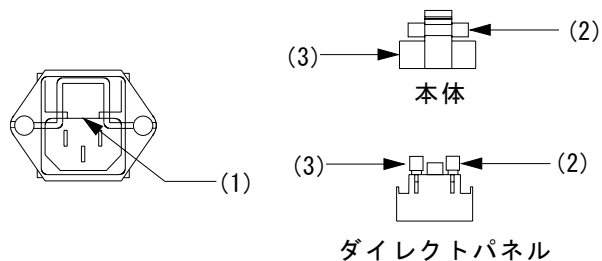


図8-1 電源ヒューズ

(1) 本体または、ダイレクトパネルの電源をOFFにします。

(2) 電源ケーブルを取り外します。

(3) (1)の凹部分をマイナスドライバーなどで手前に引き、ヒューズボックスを取り外します

(4) (2)の部分が電源ヒューズです。断線を確認してください。

(5) 断線している場合は、(3)の予備ヒューズと交換してください。

(6) 取り出したヒューズボックスを元の位置に差し込みます。

注) ヒューズは規定された容量(本体:4A、ダイレクトパネル:2A)を実装してください。

9. 仕様

1. 定格

本体

入力信号

- SDI IN KEY、FILL SMPTE292M-C準拠、0.8V_{p-p}/75Ω、BNC 各1系統
- AES/EBU IN SMPTE 276M準拠、0.3-3V_{p-p}/75Ω、BNC 各1系統
- REF IN BBS、0.43V_{p-p}/75Ω、BNC 1系統(ブリッジ可)
または3値SYNC、0.6V_{p-p}/75Ω、BNC
※3値SYNCとBBSは自動切り替え

出力信号

- SDI PREVIEW OUT KEY、FILL SMPTE292M-C準拠、0.8V_{p-p}±10%/75Ω、BNC 各1系統
- SDI PROGRAM OUT KEY、FILL SMPTE292M-C準拠、0.8V_{p-p}±10%/75Ω、BNC 各2系統
- AES/EBU OUT SMPTE 276M準拠、1V_{p-p}±10%/75Ω、BNC 各1系統

外部 I/F

- GPI/TALLY Dsub-37(f)インチネジ 1系統
接点入力×16 ※1、出力×16 ※2
2V_{p-p}/75Ω、BNC 1系統(ダイレクトパネル接続用)
- PANEL Dsub-9(f)インチネジ 1系統 ※APC制御用(オプション)
- RS-422 RJ45 1系統
- 10/100BASE プロトコル TCP/IP

FTP(ファイル転送)

※1 5V TTL信号で制御する際は吸い込み電流が12mAまで耐えられるデバイスで駆動してください。

※2 接点の絶対最大定格は60V、300mA(POWER ALARM、FAN ALARMのみ200mA)です。

映像フォーマット

画像フォーマット

音声フォーマット

ファイル枚数

1080i/59.94 ※60.00Hzはオプション
非圧縮8bit
AES/EBUデジタルオーディオ 非圧縮 48kHz/24bit
音声付の動画/静止画 合計1920フレーム
※動画の記録時間により枚数は可変します。動画1秒30フレーム分使用します。
※静止画にも音声ファイルを添付することができます。音声ファイルの記録時間は合計で約10分です。

読み出し時間

バックアップ時間

本体起動時間

表示位置調整範囲

縦(V)

横(H)

出力位相調整範囲

縦(V)

横(H)

電源

消費電力

外形寸法

質量

使用温度

約0.1秒以内
最大約7分
※ファイルの書き込み時間はメモリーから内部のHDDへ転送するため、7分程度要します。
最大約7分
※起動時間は電源起動時に内部のHDDからメモリーへ転送するため、7分程度要します。

±1080ラインフィールド単位で1ラインごと
±1920ドット2ドットごと

±1125ラインフィールド単位で1ラインごと
±2200ドット1ドットごと

AC100~240V±10%、50/60Hz

120VA

420W×88H(2U)×550D(突起部含まず)

約17kg

0~40°C

ダイレクトパネル

コントロール	2V _{p-p} /75Ω、BNC 1系統(本体と接続)
外形寸法	360W×177H×60D (突起部含まず)
質量	2.5kg
電源	AC100~240V±10%、50/60Hz
消費電力	22VA
使用温度	0~40°C

2. 性能

入力特性

• SDI IN KEY、FILL

分解能	8bit
サンプリング周波数	74.18MHz
イコライザー特性	100m/5CFB
反射減衰量	5 MHz~742.5 MHz、15 dB 以上 742.5 MHz~1.485 GHz、10 dB 以上

• AES/EBU IN

CH1/2、CH3/4、CH5/6、CH7/8

分解能	24bit
サンプリング周波数	48kHz
信号振幅	0.3~3V _{p-p} /75Ω

出力特性

• SDI OUT KEY、FILL

分解能	8bit
サンプリング周波数	74.18MHz
信号振幅	0.8V _{p-p} ±10%/75Ω
反射減衰量	5 MHz~742.5 MHz、15 dB 以上 742.5 MHz~1.485 GHz、10 dB 以上

立ち上がり/立ち下がり時間 270ps 以下(20%~80%間)

オーバーシュート 10%以下

DCオフセット 0V±0.5V

ジッター特性

アライメント 0.2UI

タイミング 1.0UI

• AES/EBU IN

CH1/2、CH3/4、CH5/6、CH7/8

分解能	24bit
サンプリング周波数	48kHz
信号振幅	1V _{p-p} ±10%/75Ω

GPI/TALLY

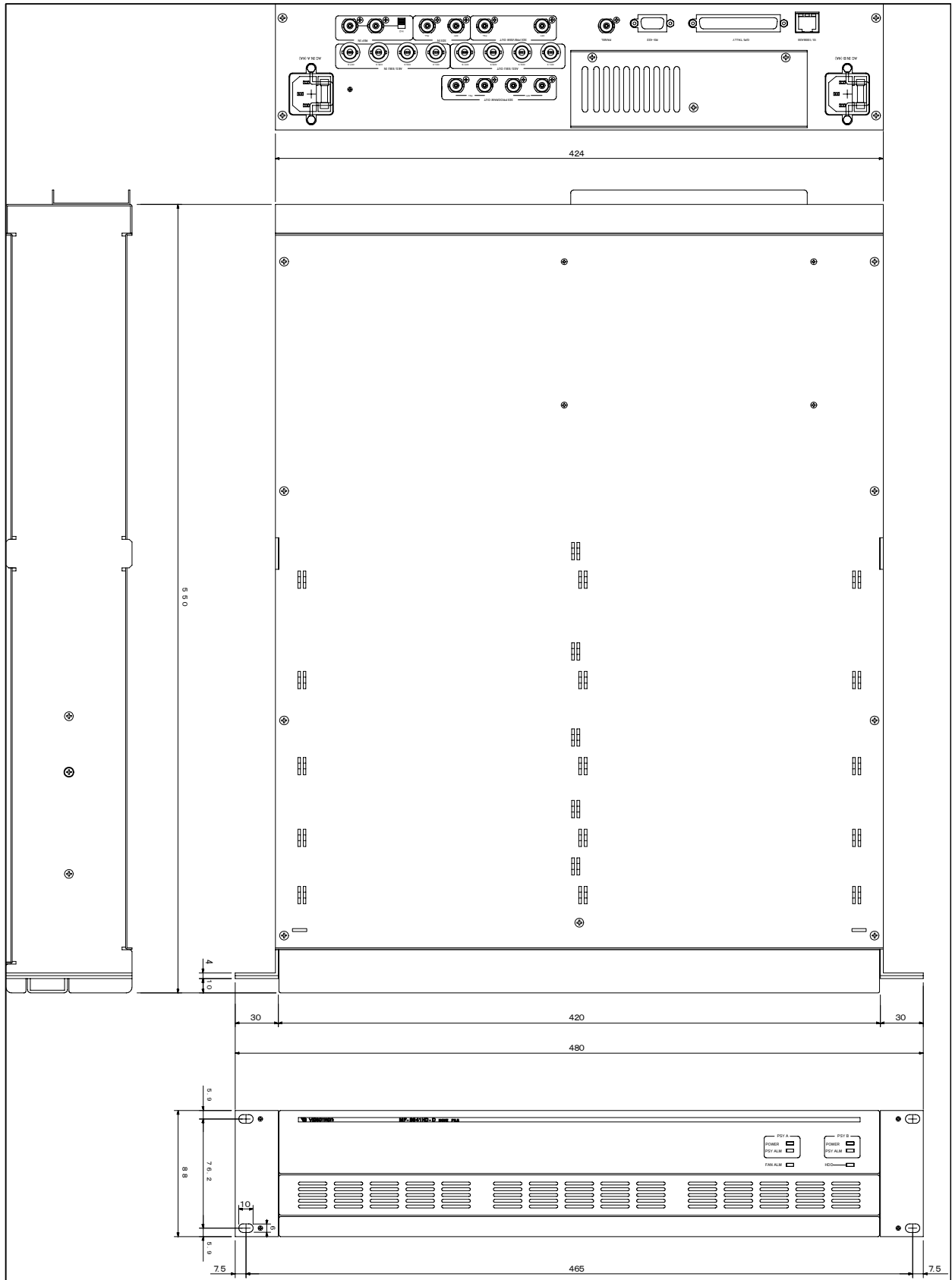
• 接点入力	12mA 最大定格
• 接点出力	60V/300mA 最大定格

PANEL

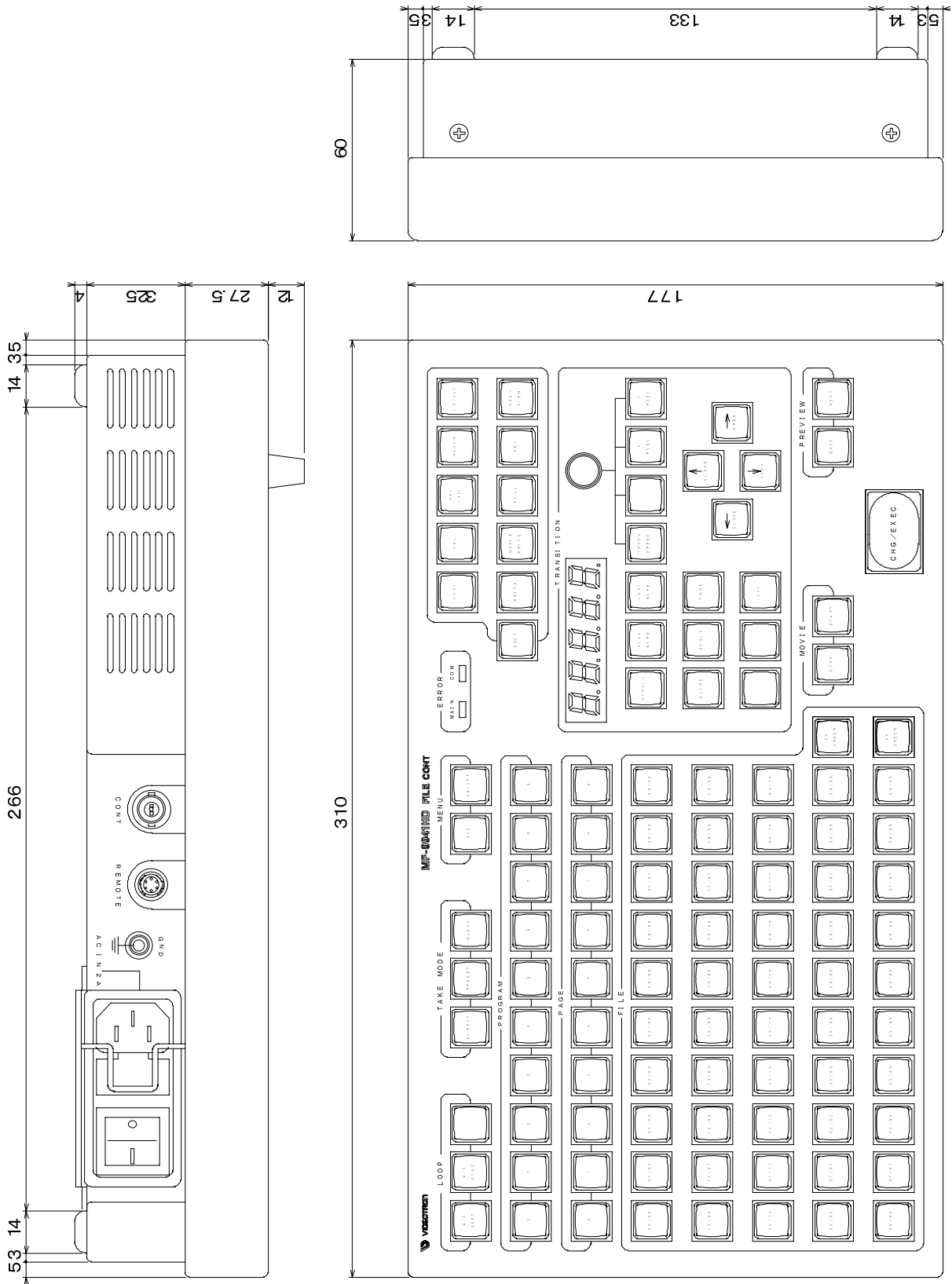
100m/3C2V

10. 外形寸法図

1. 本体



2. ダイレクトパネル



御使用各位 殿

ビデオトロン株式会社
製造技術部

緊急時の連絡先について

日頃は、当社の製品をご使用賜わりまして誠にありがとうございます。
ご使用中の製品が故障する等の緊急時には、下記のところへご連絡いただければ
適切な処置を取りますので宜しくお願い申し上げます。

記

◎営業日の連絡先

ビデオトロン株式会社 製造技術部

〒193-0835 東京都八王子市千人町2-17-16

TEL 042-666-6329

FAX 042-666-6330

受付時間 8:30~17:00

E-mail CS@videotron.co.jp

◎土曜・日曜・祝祭日の連絡先

留守番電話 042-666-6311

緊急時 090-3230-3507

受付時間 9:00~17:00

※携帯電話の為、通話に障害を起こす場合がありますので、あらかじめご了承願います。

無断転写禁止

- ・このファイルの著作権はビデオロン株式会社にあります。
- ・このファイルに含まれる文書および図版の流用を禁止します。